

IN THE UNITED STATES PATENT AND TRADEMARK OFFICE

Applicant(s): TANAKA, et al.

Serial No.: Not yet assigned

Filed: June 26, 2003

Title: DISPLAY DEVICE AND DRIVING METHOD THEREOF

Group: Not yet assigned

LETTER CLAIMING RIGHT OF PRIORITY

Honorable Commissioner of
Patents and Trademarks
Washington, D.C. 20231

June 26, 2003

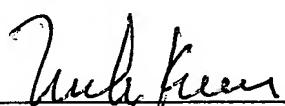
Sir:

Under the provisions of 35 USC 119 and 37 CFR 1.55, the applicants hereby claim the right of priority based on Japanese Patent Application Nos. 2002-187448 and 2002-188013, filed June 27, 2002.

A certified copy of each said Japanese Application is attached.

Respectfully submitted,

ANTONELLI, TERRY, STOUT & KRAUS, LLP



Melvin Kraus

Registration No. 22,466

MK/alb
Attachment
(703) 312-6600

日本国特許庁
JAPAN PATENT OFFICE

別紙添付の書類に記載されている事項は下記の出願書類に記載されている事項と同一であることを証明する。

This is to certify that the annexed is a true copy of the following application as filed with this Office

出願年月日

Date of Application:

2002年 6月27日

出願番号

Application Number:

特願2002-187448

[ST.10/C]:

[J P 2002-187448]

出願人

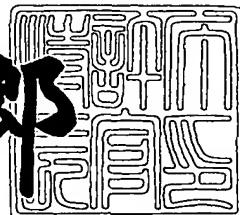
Applicant(s):

株式会社 日立ディスプレイズ
日立デバイスエンジニアリング株式会社

2003年 5月30日

特許庁長官
Commissioner,
Japan Patent Office

太田 信一郎



出証番号 出証特2003-3016517

【書類名】 特許願
【整理番号】 330200221
【あて先】 特許庁長官殿
【国際特許分類】 G02F 1/133
【発明者】
【住所又は居所】 千葉県茂原市早野3681番地 日立デバイスエンジニアリング株式会社内
【氏名】 田中 昌広
【発明者】
【住所又は居所】 神奈川県横浜市戸塚区吉田町292番地 株式会社日立製作所 システム開発研究所内
【氏名】 新田 博幸
【発明者】
【住所又は居所】 千葉県茂原市早野3300番地 株式会社日立製作所 ディスプレイグループ内
【氏名】 武田 伸宏
【発明者】
【住所又は居所】 千葉県茂原市早野3681番地 日立デバイスエンジニアリング株式会社内
【氏名】 中村 雅志
【特許出願人】
【識別番号】 000005108
【氏名又は名称】 株式会社日立製作所
【特許出願人】
【識別番号】 000233088
【氏名又は名称】 日立デバイスエンジニアリング株式会社
【代理人】
【識別番号】 100083552
【弁理士】

【氏名又は名称】 秋田 収喜

【電話番号】 03-3893-6221

【手数料の表示】

【予納台帳番号】 014579

【納付金額】 21,000円

【提出物件の目録】

【物件名】 明細書 1

【物件名】 図面 1

【物件名】 要約書 1

【プルーフの要否】 要

【書類名】 明細書

【発明の名称】 液晶表示装置およびその駆動方法

【特許請求の範囲】

【請求項1】 各画素は液晶に電圧を印加する一対の電極を備えてなり、

第1方向沿いに並ぶ複数の画素を夫々含む複数の画素行が該第1方向に交差する第2方向沿いに並設される画素アレイ、該複数の画素行の夫々を走査信号にて選択する走査駆動回路、該複数の画素行の該走査信号にて選択された少なくとも1行に含まれる該画素の各々に表示信号を供給するデータ駆動回路、及び該画素アレイの表示動作を制御する表示制御回路を備えたものであって、

映像データがその水平走査周期ごとにその1ラインずつ入力され、

前記データ駆動回路は、前記映像データの1ライン毎にこれに対応する表示信号を順次生成し且つ該表示信号を画素アレイにN回（Nは2以上の自然数）出力する第1の工程と、

前記画素の輝度を前記第1工程における該画素のそれ以下にする表示信号を生成し且つ該表示信号を画素アレイにM回（MはNより小さい自然数）出力する第2の工程とが交互に繰り返され、

前記走査駆動回路は、前記第1の工程において前記複数の画素行をY行（YはN/Mより小さい自然数）毎に前記画素アレイの一端から他端に向けて前記第2方向沿いに順次選択する第1選択工程と、

前記第2の工程において前記複数の画素行の前記第1選択工程で選択された（Y×N）行以外をZ行（ZはN/M以上の自然数）毎に前記画素アレイの一端から他端に向けて前記第2方向沿いに順次選択する第2選択工程とが交互に繰り返され、

前記第1の工程により各画素にはその第1方向および第2方向のいずれに隣接される他の画素に対して一方の電極に対する他方の電極の極性を異ならしめて表示信号が印加され、

前記第2の工程により出力される表示信号は、それが供給される各画素の一方の電極に対する他方の電極の極性は、該表示信号の出力後に前記第1の工程により出力される1回目の表示信号が供給される各画素に対して第2方向側で互いに

異なることを特徴とする液晶表示装置。

【請求項2】 各画素は液晶に電圧を印加する一対の電極を備えてなり、

第1方向沿いに並ぶ複数の画素を夫々含む複数の画素行が該第1方向に交差する第2方向沿いに並設される画素アレイ、該複数の画素行の夫々を走査信号にて選択する走査駆動回路、該複数の画素行の該走査信号にて選択された少なくとも1行に含まれる該画素の各々に表示信号を供給するデータ駆動回路、及び該画素アレイの表示動作を制御する表示制御回路を備えたものであって、

映像データがその水平走査周期ごとにその1ラインずつ入力され、

前記データ駆動回路は、前記映像データの1ライン毎にこれに対応する表示信号を順次生成し且つ該表示信号を画素アレイにN回（Nは2以上の自然数）出力する第1の工程と、

前記画素の輝度を前記第1工程における該画素のそれ以下にする表示信号を生成し且つ該表示信号を画素アレイにM回（MはNより小さい自然数）出力する第2の工程とが交互に繰り返され、

前記走査駆動回路は、前記第1の工程において前記複数の画素行をY行（YはN/Mより小さい自然数）毎に前記画素アレイの一端から他端に向けて前記第2方向沿いに順次選択する第1選択工程と、

前記第2の工程において前記複数の画素行の前記第1選択工程で選択された（Y×N）行以外をZ行（ZはN/M以上の自然数）毎に前記画素アレイの一端から他端に向けて前記第2方向沿いに順次選択する第2選択工程とが交互に繰り返され、

前記第1の工程により各画素にはその第1方向および第2方向のいずれに隣接される他の画素に対して一方の電極に対する他方の電極の極性を異ならしめて表示信号が印加され、

前記第2の工程により出力される表示信号は、その出力がフレーム毎の表示にて異なる時間をずらしてなされるとともに、それが供給される各画素の一方の電極に対する他方の電極の極性は、該表示信号の出力後に前記第1の工程により出力される1回目の表示信号が供給される各画素に対して第2方向側で互いに異なることを特徴とする液晶表示装置。

【請求項3】 前記第1の工程における前記表示信号の1回の出力に呼応して前記第1選択工程で選択される前記画素行の行数: Yは1であり、該第1の工程での表示信号の出力回数: Nは4以上であり、前記第2の工程における前記表示信号の1回の出力に呼応して前記第2選択工程で選択される前記画素行の行数: Zは4以上であり、且つ該第2の工程での表示信号の出力回数: Nは1である請求項1、2のうちいずれかに記載の液晶表示装置。

【請求項4】 各画素は液晶に電圧を印加する一対の電極を備えてなり、

第1方向沿いに並ぶ複数の画素を夫々含む複数の画素行が該第1方向に交差する第2方向沿いに並設される画素アレイ、該複数の画素行の夫々を走査信号にて選択する走査駆動回路、該複数の画素行の該走査信号にて選択された少なくとも1行に含まれる該画素の各々に表示信号を供給するデータ駆動回路、及び該画素アレイの表示動作を制御する表示制御回路を備えた液晶表示装置に映像データをその水平走査周期ごとにその1ラインずつ入力し、

前記データ駆動回路により、

前記映像データの1ライン毎にこれに対応する表示信号を順次生成し且つ該表示信号を画素アレイにN回 (Nは2以上の自然数) 出力する第1の工程と、

前記画素の輝度を前記第1工程における該画素のそれ以下にする表示信号を生成し且つ該表示信号を画素アレイにM回 (MはNより小さい自然数) 出力する第2の工程とを交互に繰り返し、

前記走査駆動回路により、

前記第1の工程において前記複数の画素行をY行 (YはN/Mより小さい自然数) 毎に前記画素アレイの一端から他端に向けて前記第2方向沿いに順次選択する第1選択工程と、

前記第2の工程において前記複数の画素行の前記第1選択工程で選択された (Y×N) 行以外をZ行 (ZはN/M以上の自然数) 毎に前記画素アレイの一端から他端に向けて前記第2方向沿いに順次選択する第2選択工程とを交互に繰り返し、

前記第1の工程により各画素にはその第1方向および第2方向のいずれに隣接される他の画素に対して一方の電極に対する他方の電極の極性を異ならしめて表

示信号が印加され、

前記第2の工程により出力される表示信号は、それが供給される各画素の一方の電極に対する他方の電極の極性は、該表示信号の出力後に前記第1の工程により出力される1回目の表示信号が供給される各画素に対して第2方向側で互いに異ならしめていることを特徴とする液晶表示装置の駆動方法。

【請求項5】 各画素は液晶に電圧を印加する一対の電極を備えてなり、

第1方向沿いに並ぶ複数の画素を夫々含む複数の画素行が該第1方向に交差する第2方向沿いに並設される画素アレイ、該複数の画素行の夫々を走査信号にて選択する走査駆動回路、該複数の画素行の該走査信号にて選択された少なくとも1行に含まれる該画素の各々に表示信号を供給するデータ駆動回路、及び該画素アレイの表示動作を制御する表示制御回路を備えた液晶表示装置に映像データをその水平走査周期ごとにその1ラインずつ入力し、

前記データ駆動回路により、

前記映像データの1ライン毎にこれに対応する表示信号を順次生成し且つ該表示信号を画素アレイにN回（Nは2以上の自然数）出力する第1の工程と、

前記画素の輝度を前記第1工程における該画素のそれ以下にする表示信号を生成し且つ該表示信号を画素アレイにM回（MはNより小さい自然数）出力する第2の工程とを交互に繰り返し、

前記走査駆動回路により、

前記第1の工程において前記複数の画素行をY行（YはN/Mより小さい自然数）毎に前記画素アレイの一端から他端に向けて前記第2方向沿いに順次選択する第1選択工程と、

前記第2の工程において前記複数の画素行の前記第1選択工程で選択された（Y×N）行以外をZ行（ZはN/M以上の自然数）毎に前記画素アレイの一端から他端に向けて前記第2方向沿いに順次選択する第2選択工程とを交互に繰り返し、

前記第1の工程により各画素にはその第1方向および第2方向のいずれに隣接される他の画素に対して一方の電極に対する他方の電極の極性を異ならしめて表示信号が印加され、

前記第2の工程により出力される表示信号は、その出力がフレーム毎の表示にて異なる時間をずらしてなされるとともに、それが供給される各画素の一方の電極に対する他方の電極の極性は、該表示信号の出力後に前記第1の工程により出力される1回目の表示信号が供給される各画素に対して第2方向側で互いに異なるらしめていることを特徴とする液晶表示装置の駆動方法。

【請求項6】

前記第1の工程における前記表示信号の1回の出力に呼応して前記第1選択工程で選択される前記画素行の行数: Yは1であり、該第1の工程での表示信号の出力回数: Nは4以上であり、前記第2の工程における前記表示信号の1回の出力に呼応して前記第2選択工程で選択される前記画素行の行数: Zは4以上であり、且つ該第2の工程での表示信号の出力回数: Nは1である請求項4、5のうちいずれかに記載の液晶表示装置の駆動方法。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】

本発明は液晶表示装置およびその駆動方法に係り、特にアクティブ・マトリクス型と称される液晶表示装置およびその駆動方法に関する。

【0002】

【従来の技術】

アクティブ・マトリクス型の液晶表示装置は、液晶を介して対向配置される各基板のうち一方の基板の液晶側の面に、そのx方向に延在しy方向に並設される複数のゲート信号線とy方向に延在しx方向に並設される複数のドレイン信号線とで囲まれる各領域を画素領域とし、これら各画素領域の集合体を液晶表示部としている。

【0003】

各画素領域には、ゲート信号線からの走査信号によって駆動するスイッチング素子と、このスイッチング素子を介してドレイン信号線からの映像信号が供給される画素電極とが少なくとも形成されて画素を構成している。

【0004】

前記画素電極は前記一方の基板側にあるいは他方の基板側に形成された対向電極との間に電界を生じせしめ、この電界によって液晶の光透過率を制御するようになっている。

【0005】

各ゲート信号線はそれらに順次走査信号を供給することによって、該走査信号線が供給されたゲート信号線に沿って並列される画素群の各画素が選択され、この選択されたタイミングに合わせて、各ドレイン信号線に供給される映像信号が前記各画素の画素電極に供給されるようになる。

【0006】

そして、このように構成された液晶表示装置は、それに動画を映像させる際にその画像を鮮明化させるため、画面の全域を複数のフレームにわたって黒表示させることが試みられている。

【0007】

【発明が解決しようとする課題】

しかし、たとえば、画面の全域をゲート信号線に沿った方向で複数に分割し、これら分割されたそれぞれの領域に各フレームの切り替え毎に順次黒表示した場合に、各領域の境目に相当する部分に、該ゲート信号線に沿った比較的明るく表示される横縞が目視されることが見出された。

【0008】

本発明は、このような事情に基づいてなされたもので、その目的は、画面上に表示される横縞の発生を防止した液晶表示装置およびその駆動方法を提供することにある。

【0009】

【課題を解決するための手段】

本願において開示される発明のうち、代表的なものの概要を簡単に説明すれば、以下のとおりである。

【0010】

手段1.

本発明による液晶表示装置は、たとえば、各画素は液晶に電圧を印加する一対

の電極を備えてなり、

第1方向沿いに並ぶ複数の画素を夫々含む複数の画素行が該第1方向に交差する第2方向沿いに並設される画素アレイ、該複数の画素行の夫々を走査信号にて選択する走査駆動回路、該複数の画素行の該走査信号にて選択された少なくとも1行に含まれる該画素の各々に表示信号を供給するデータ駆動回路、及び該画素アレイの表示動作を制御する表示制御回路を備えたものであって、

映像データがその水平走査周期ごとにその1ラインずつ入力され、

前記データ駆動回路は、前記映像データの1ライン毎にこれに対応する表示信号を順次生成し且つ該表示信号を画素アレイにN回（Nは2以上の自然数）出力する第1の工程と、

前記画素の輝度を前記第1工程における該画素のそれ以下にする表示信号を生成し且つ該表示信号を画素アレイにM回（MはNより小さい自然数）出力する第2の工程とが交互に繰り返され、

前記走査駆動回路は、前記第1の工程において前記複数の画素行をY行（YはN/Mより小さい自然数）毎に前記画素アレイの一端から他端に向けて前記第2方向沿いに順次選択する第1選択工程と、

前記第2の工程において前記複数の画素行の前記第1選択工程で選択された（Y×N）行以外をZ行（ZはN/M以上の自然数）毎に前記画素アレイの一端から他端に向けて前記第2方向沿いに順次選択する第2選択工程とが交互に繰り返され、

前記第1の工程により各画素にはその第1方向および第2方向のいずれに隣接される他の画素に対して一方の電極に対する他方の電極の極性を異ならしめて表示信号が印加され、

前記第2の工程により出力される表示信号は、それが供給される各画素の一方の電極に対する他方の電極の極性は、該表示信号の出力後に前記第1の工程により出力される1回目の表示信号が供給される各画素に対して第2方向側で互いに異ならしめていることを特徴とするものである。

【0011】

手段2.

本発明による液晶表示装置は、たとえば、各画素は液晶に電圧を印加する一对の電極を備えてなり、

第1方向沿いに並ぶ複数の画素を夫々含む複数の画素行が該第1方向に交差する第2方向沿いに並設される画素アレイ、該複数の画素行の夫々を走査信号にて選択する走査駆動回路、該複数の画素行の該走査信号にて選択された少なくとも1行に含まれる該画素の各々に表示信号を供給するデータ駆動回路、及び該画素アレイの表示動作を制御する表示制御回路を備えたものであって、

映像データがその水平走査周期ごとにその1ラインずつ入力され、

前記データ駆動回路は、前記映像データの1ライン毎にこれに対応する表示信号を順次生成し且つ該表示信号を画素アレイにN回（Nは2以上の自然数）出力する第1の工程と、

前記画素の輝度を前記第1工程における該画素のそれ以下にする表示信号を生成し且つ該表示信号を画素アレイにM回（MはNより小さい自然数）出力する第2の工程とが交互に繰り返され、

前記走査駆動回路は、前記第1の工程において前記複数の画素行をY行（YはN/Mより小さい自然数）毎に前記画素アレイの一端から他端に向けて前記第2方向沿いに順次選択する第1選択工程と、

前記第2の工程において前記複数の画素行の前記第1選択工程で選択された（Y×N）行以外をZ行（ZはN/M以上の自然数）毎に前記画素アレイの一端から他端に向けて前記第2方向沿いに順次選択する第2選択工程とが交互に繰り返され、

前記第1の工程により各画素にはその第1方向および第2方向のいずれに隣接される他の画素に対して一方の電極に対する他方の電極の極性を異ならしめて表示信号が印加され、

前記第2の工程により出力される表示信号は、その出力がフレーム毎の表示にて異なる時間をずらしてなされるとともに、それが供給される各画素の一方の電極に対する他方の電極の極性は、該表示信号の出力後に前記第1の工程により出力される1回目の表示信号が供給される各画素に対して第2方向側で互いに異なることを特徴とするものである。

【0012】

手段3.

本発明による液晶表示装置は、たとえば、手段1、2のうちいずれかの構成を前提とし、前記第1の工程における前記表示信号の1回の出力に呼応して前記第1選択工程で選択される前記画素行の行数: Yは1であり、該第1の工程での表示信号の出力回数: Nは4以上であり、前記第2の工程における前記表示信号の1回の出力に呼応して前記第2選択工程で選択される前記画素行の行数: Zは4以上であり、且つ該第2の工程での表示信号の出力回数: Nは1であることを特徴とするものである。

【0013】

手段4.

本発明による液晶表示装置の駆動方法は、たとえば、各画素は液晶に電圧を印加する一対の電極を備えてなり、

第1方向沿いに並ぶ複数の画素を夫々含む複数の画素行が該第1方向に交差する第2方向沿いに並設される画素アレイ、該複数の画素行の夫々を走査信号にて選択する走査駆動回路、該複数の画素行の該走査信号にて選択された少なくとも1行に含まれる該画素の各々に表示信号を供給するデータ駆動回路、及び該画素アレイの表示動作を制御する表示制御回路を備えた液晶表示装置に映像データをその水平走査周期ごとにその1ラインずつ入力し、

前記データ駆動回路により、

前記映像データの1ライン毎にこれに対応する表示信号を順次生成し且つ該表示信号を画素アレイにN回 (Nは2以上の自然数) 出力する第1の工程と、

前記画素の輝度を前記第1工程における該画素のそれ以下にする表示信号を生成し且つ該表示信号を画素アレイにM回 (MはNより小さい自然数) 出力する第2の工程とを交互に繰り返し、

前記走査駆動回路により、

前記第1の工程において前記複数の画素行をY行 (YはN/Mより小さい自然数) 毎に前記画素アレイの一端から他端に向けて前記第2方向沿いに順次選択する第1選択工程と、

前記第2の工程において前記複数の画素行の前記第1選択工程で選択された($Y \times N$)行以外をZ行(ZはN/M以上の自然数)毎に前記画素アレイの一端から他端に向けて前記第2方向沿いに順次選択する第2選択工程とを交互に繰り返し、

前記第1の工程により各画素にはその第1方向および第2方向のいずれに隣接される他の画素に対して一方の電極に対する他方の電極の極性を異ならしめて表示信号が印加され、

前記第2の工程により出力される表示信号は、それが供給される各画素の一方の電極に対する他方の電極の極性は、該表示信号の出力後に前記第1の工程により出力される1回目の表示信号が供給される各画素に対して第2方向側で互いに異ならしめていることを特徴とするするものである。

【0014】

手段5.

本発明による液晶表示装置の駆動方法は、たとえば、各画素は液晶に電圧を印加する一対の電極を備えてなり、

第1方向沿いに並ぶ複数の画素を夫々含む複数の画素行が該第1方向に交差する第2方向沿いに並設される画素アレイ、該複数の画素行の夫々を走査信号にて選択する走査駆動回路、該複数の画素行の該走査信号にて選択された少なくとも1行に含まれる該画素の各々に表示信号を供給するデータ駆動回路、及び該画素アレイの表示動作を制御する表示制御回路を備えた液晶表示装置に映像データをその水平走査周期ごとにその1ラインずつ入力し、

前記データ駆動回路により、

前記映像データの1ライン毎にこれに対応する表示信号を順次生成し且つ該表示信号を画素アレイにN回(Nは2以上の自然数)出力する第1の工程と、

前記画素の輝度を前記第1工程における該画素のそれ以下にする表示信号を生成し且つ該表示信号を画素アレイにM回(MはNより小さい自然数)出力する第2の工程とを交互に繰り返し、

前記走査駆動回路により、

前記第1の工程において前記複数の画素行をY行(YはN/Mより小さい自然

数) 每に前記画素アレイの一端から他端に向けて前記第2方向沿いに順次選択する第1選択工程と、

前記第2の工程において前記複数の画素行の前記第1選択工程で選択された($Y \times N$)行以外を乙行(乙は N/M 以上の自然数)毎に前記画素アレイの一端から他端に向けて前記第2方向沿いに順次選択する第2選択工程とを交互に繰り返し、

前記第1の工程により各画素にはその第1方向および第2方向のいずれに隣接される他の画素に対して一方の電極に対する他方の電極の極性を異ならしめて表示信号が印加され、

前記第2の工程により出力される表示信号は、その出力がフレーム毎の表示にて異なる時間をずらしてなされるとともに、それが供給される各画素の一方の電極に対する他方の電極の極性は、該表示信号の出力後に前記第1の工程により出力される1回目の表示信号が供給される各画素に対して第2方向側で互いに異なることを特徴とするするものである。

【0015】

手段6.

本発明による液晶表示装置の駆動方法は、たとえば、手段4、5のうちいずれかの構成を前提として、前記第1の工程における前記表示信号の1回の出力に呼応して前記第1選択工程で選択される前記画素行の行数: Yは1であり、該第1の工程での表示信号の出力回数: Nは4以上であり、前記第2の工程における前記表示信号の1回の出力に呼応して前記第2選択工程で選択される前記画素行の行数: Zは4以上であり、且つ該第2の工程での表示信号の出力回数: Nは1であることを特徴とするものである。

【0016】

なお、本発明は以上の構成に限定されず、本発明の技術思想を逸脱しない範囲で種々の変更が可能である。

【0017】

【発明の実施の形態】

以下、本発明による液晶表示装置の実施例を図面を用いて説明をする。

【0018】

《第1の実施例》

本発明による表示装置及びその駆動方法の第1の実施例を図1乃至図7を参照して説明する。本実施例では、アクティブ・マトリクス型の液晶表示パネル (Active Matrix-type Liquid Crystal Display Panel) を画素アレイ (Pixels-Array) に用いた表示装置 (液晶表示装置) を引き合いに出すが、その基本的な構造や駆動方法はエレクトロルミネンス・アレイ (Electroluminescence Array) や発光ダイオード・アレイ (Light Emitting Diode Array) を画素アレイとして用いた表示装置にも適用され得る。

【0019】

図1は、本発明による表示装置の画素アレイへの表示信号出力 (データ・ドライバ出力電圧) とその各々に呼応した画素アレイ内の走査信号線G1の選択タイミングを示すタイミング・チャートである。図2は、表示装置に備えられた表示制御回路 (タイミング・コントローラ) への映像データの入力 (入力データ) とこれからの映像データの出力 (ドライバ・データ) のタイミングを示すタイミング・チャートである。図3は、本発明による表示装置の本実施例における概要を示す構成図 (ブロック図) であり、これに示された画素アレイ101とその周辺の詳細の一例は図9に示される。先述の図1及び図2のタイミング・チャートは、図3に示された表示装置 (液晶表示装置) の構成に基づいて描かれている。図4は、本実施例における表示装置の画素アレイへの表示信号出力 (データ・ドライバ出力電圧) とその各々に呼応した走査信号線選択タイミング別の例を示すタイミング・チャートであり、表示信号の出力期間にシフトレジスタ型走査ドライバ (Shift-register type Scanning Driver) から出力される走査信号線で走査信号線の4本を選択し、これらの走査信号線の夫々に対応する画素行に表示信号を供給する。図5は、表示制御回路104 (図3参照) に備えられたライン・メモリ回路 (Line-Memory Circuit) 105に含まれる4つのライン・メモリ毎に4ライン分の映像データを1ラインずつ書き込み (Write) し、且つ夫々のライン・メモリから読み出して (Read-Out) 、データ・ドライバ (映像信号駆動回路) に転送するタイミングを示すタイミング・チャートである。図6は、本発明による

表示装置の駆動方法に係り、その画素アレイでの本実施例による映像データ及びブランкиング・データの表示タイミングを示し、これに則り本実施例における表示装置（液晶表示装置）を駆動したときの画素の輝度応答（画素に対応する液晶層の光透過率の変動）を図7に示す。

【0020】

はじめに、図3を参照して本実施例における表示装置100の概要を説明する。この表示装置100は、画素アレイ101としてWXGAクラスの解像度を有する液晶表示パネル（以下、液晶パネルと記す）を備える。WXGAクラスの解像度を有する画素アレイ101は、液晶パネルに限らず、その画面内に水平方向に1280ドットの画素を並べてなる画素行が垂直方向に768ライン並設されていることに特徴づけられる。本実施例における表示装置の画素アレイ101は、既に図9を参照して説明されたそれと概ね同じであるが、その解像度ゆえ、画素アレイ101の面内には768ラインのゲート線10と1280ラインのデータ線12とが夫々並設される。また、画素アレイ101には、その各々が前者のいずれか一つで伝送される走査信号で選択されて後者のいずれか一つから表示信号を受ける983040個の画素PIXが二次元的に配置され、これらにより画像が生成される。画素アレイがカラー画像を表示する場合は、各画素はカラー表示に用いられる原色の数に応じて水平方向に分割される。例えば、光の三原色（赤、緑、青）に応じたカラー・フィルタを備える液晶パネルでは、上述のデータ線12の数は3840ラインに増やされ、その表示画面に含まれる画素PIXの総数も上述の値の3倍となる。

【0021】

本実施例で画素アレイ101として用いられる前記液晶パネルを更に詳細に説明すれば、これに含まれる画素PIXの各々はスイッチング素子SWとして薄膜トランジスタ（Thin Film Transistor, TFTと略される）を備える。また、各画素はこれに供給される表示信号が増大するほど高い輝度を示す所謂ノーマリ黒表示モード（Normally Black-displaying Mode）で動作する。本実施例の液晶パネルのみならず、上述のエレクトロルミネセンス・アレイや発光ダイオード・アレイの画素もノーマリ黒表示モードで動作する。ノーマリ黒表示モードで動作する液

晶パネルにおいては、図9の画素PIXに設けられた画素電極PXにデータ線12からスイッチング素子SWを通して印加される階調電圧と、液晶層LCを挟んで画素電極PXと対向する対向電極CTに印加される対向電圧（基準電圧、コモン電圧ともよばれる）との電位差が大きくなるほど、この液晶層LCの光透過率が上昇し、画素PIXの輝度を高める。換言すれば、この液晶パネルの表示信号である階調電圧は、その値が対向電圧の値から離れるほど、表示信号を増大させる。

【0022】

図3に示された画素アレイ（TFT型の液晶パネル）101には、図9に示される画素アレイ101と同様に、これに設けられたデータ線（信号線）12に表示データに応じた表示信号（階調電圧、Gray Scale Voltage, or Tone Voltage）を与えるデータ・ドライバ（表示信号駆動回路）102と、これに設けられたゲート線（走査線）10に走査信号（電圧信号）を与える走査ドライバ（走査信号駆動回路）103-1, 103-2, 103-3とが夫々設けられる。本実施例では、走査ドライバを画素アレイ101の所謂垂直方向沿いに3つに分割したが、その個数はこれに限らず、またこれらの機能を集約させた一つの走査ドライバに置き換えるてもよい。

【0023】

表示制御回路（タイミング・コントローラ、Timing Controller）104は、データ・ドライバ102に上述の表示データ（ドライバ・データ、Driver Data）106及びこれに応じた表示信号出力を制御するタイミング信号（データ・ドライバ制御信号、Data Driver Control Signal）107を、走査ドライバ103-1, 103-2, 103-3の夫々に走査クロック信号（Scanning Clock Signal）112及び走査開始信号（Scanning Start Signal）113を夫々転送する。表示制御回路104は、走査ドライバ103-1, 103-2, 103-3に、その夫々に応じた走査状態選択信号（Scan-Condition Selecting Signal）114-1, 114-2, 114-3をも転送するが、その機能については後述する。走査状態選択信号は、その機能からして表示動作選択信号（Display-Operation Selecting Signal）とも記される。

【0024】

表示制御回路104は、テレビジョン受像機、パーソナル・コンピュータ、DV

Dプレーヤ等、表示装置100の外部の映像信号源からこれに入力される映像データ（映像信号）120及び映像制御信号121を受ける。表示制御回路104の内部又はその周辺には映像データ120を一時的に格納するメモリ回路が設けられるが、本実施例ではライン・メモリ回路105が表示制御回路104に内蔵される。映像制御信号121は、映像データの伝送状態を制御する垂直同期信号（Vertical Synchronizing Signal）VSYNC、水平同期信号（Vertical Synchronizing Signal）H SYNC、ドット・クロック信号（Dot Clock Signal）DOTCLK、及びディスプレイ・タイミング信号（Display Timing Signal）DTMGを含む。表示装置100に1画面の映像を生成させる映像データは、垂直同期信号VSYNCに呼応して（同期して）表示制御回路104に入力される。換言すれば、映像データは垂直同期信号VSYNCにより規定される周期（垂直走査期間、フレーム期間とも呼ばれる）毎に上記映像信号源から表示装置100（表示制御回路104）に逐次入力され、このフレーム期間毎に1画面の映像が入れ代わり立ち代わり画素アレイ101に表示される。1フレーム期間における映像データは、これに含まれる複数のライン・データ（Line Data）を上述の水平同期信号H SYNCで規定される周期（水平走査期間とも呼ばれる）で分けて表示装置に順次入力される。換言すれば、フレーム期間毎に表示装置に入力される映像データの各々は複数のライン・データを含み、これにより生成される1画面の映像はライン・データ毎に拡げる水平方向の映像を水平走査期間毎に垂直方向に順次並べて生成される。1画面の水平方向に並ぶ画素の各々に対応したデータは、上記ライン・データの各々を上記ドット・クロック信号で規定される周期で識別される。

【0025】

映像データ120及び映像制御信号121は陰極線管（Cathode Ray Tube）を用いた表示装置にも入力されるため、その電子線を水平走査期間毎及びフレーム期間毎に走査終了位置から走査開始位置に掃引する時間を要する。この時間は映像情報の伝送においてデッド・タイム（Dead Time）となるため、これに対応する映像情報の伝送に寄与しない帰線期間（Retracing Period）と呼ばれる領域が映像データ120にも設けられる。映像データ120において、この帰線期間に対応する領域は、上述のディスプレイ・タイミング信号DTMGにより映像情報の伝送に

寄与する他の領域と識別される。

【0026】

一方、本実施例にて記されるアクティブ・マトリクス型の表示装置100は、そのデータ・ドライバ102で1ラインの映像データ（上述のライン・データ）分の表示信号を生成し、これらを走査ドライバ103によるゲート線10の選択に呼応させて画素アレイ101に並設された複数のデータ線（信号線）12へ一斉に出力する。このため、理論的には帰線期間を挟むことなく水平走査期間から次の水平走査期間へライン・データの画素行への入力が続けられ、フレーム期間から次のフレーム期間へ映像データの画素アレイへの入力も続けられる。このため、本実施例の表示装置100では、表示制御回路104によるメモリ回路（ライン・メモリ）105からの1ライン分の映像データ（ライン・データ）毎の読み出しを、上述の水平走査期間（1ライン分の映像データのメモリ回路105への格納に宛がわれる）に含まれる帰線期間を縮めて生成された周期に則り行う。この周期は、後述する画素アレイ101への表示信号の出力間隔にも反映されるため、以降、画素アレイ動作の水平期間又は単に水平期間と記す。表示制御回路104は、この水平期間を規定する水平クロックCL1を生成し、上述のデータ・ドライバ制御信号107の一つとしてデータ・ドライバ102に転送する。本実施例では、1ライン分の映像データをメモリ回路105に格納する時間（上述の水平走査期間）に対して、これをメモリ回路105から読み出す時間（上述の水平期間）を縮めることで、1フレーム期間毎に画素アレイ101にブランкиング信号を入力する時間を捻出する。

【0027】

図2は、表示制御回路104によるメモリ回路105への映像データ入力（格納）とこれからの中出力（読み出し）の一例を示すタイミング・チャートである。垂直同期信号VSYNCのパルス間隔で規定されるフレーム期間毎に表示装置に入力される映像データは、入力データの波形に示される如く、これに含まれる複数のライン・データ（1ラインの映像データ）L1, L2, L3, …毎に帰線期間を夫々含めて、水平同期信号HSYNCに呼応して（同期して）表示制御回路104によりメモリ回路105に順次入力される。表示制御回路104は、上述の水平クロックCL1又はこれに類似するタイミング信号に則りメモリ回路105に格納されたライン・

データL1, L2, L3, …を出力データの波形に示される如く、順次読み出す。このとき、メモリ回路105から出力されるライン・データL1, L2, L3, …の夫々を時間軸沿いに隔てる帰線期間は、メモリ回路105に入力されるライン・データL1, L2, L3, …の夫々を隔てるそれより、時間軸沿いに縮められる。このため、N回（Nは2以上の自然数）のライン・データのメモリ回路105への入力に要する期間とこれらのライン・データのメモリ回路105からの出力に要する期間（N回のライン・データ出力期間）との間には、メモリ回路105からライン・データをM回（MはNより小さい自然数）出力し得る時間が生じる。本実施例では、このMライン分の映像データをメモリ回路105から出力せしめる言わば余剰時間で画素アレイ101に別の表示動作を行わせる。

【0028】

なお、映像データ（図2では、これに含まれるライン・データ）は、データ・ドライバ102に転送される前に一旦メモリ回路105に格納されるため、その格納される期間に応じた遅延時間において表示制御回路104により読み出される。メモリ回路105としてフレーム・メモリを用いた場合、この遅延時間は1フレーム期間に相当する。映像データが30Hzの周波数で表示装置に入力されるとき、その1フレーム期間は約33ms（ミリ秒）であるため、表示装置のユーザは映像データの表示装置への入力時刻に対するその画像の表示時刻の遅れを知覚し得ない。しかしながら、上述のメモリ回路105として、フレーム・メモリに代えて複数のライン・メモリを表示装置100に設けることにより、この遅延時間を縮め且つ表示制御回路104又はその周辺の回路構造を簡素にし又はその寸法の増大を抑えることができる。

【0029】

メモリ回路105として、複数のライン・データを格納するライン・メモリを用いた表示装置100の駆動方法の一例を図5を参照して説明する。この一例による表示装置100の駆動では、表示制御回路104へのNライン分の映像データ入力期間とこれからのNライン分の映像データ出力期間（Nラインの映像データに夫々応じた表示信号をデータ・ドライバ102から逐次出力する期間）との間に生じる上記余剰時間にて、既に画素アレイに保持された表示信号（一つ前のフレーム期間

に画素アレイに入力された映像データ) をマスクする表示信号(以下、これをブランкиング信号と記す)をM回書込む。この表示装置100の駆動方法では、データ・ドライバ102によりNラインの映像データの各々から表示信号を逐次生成し且つこれを水平クロックCL1に呼応させて順次(合計N回)画素アレイ101に出力する第1の工程と、上述のブランкиング信号を水平クロックCL1に呼応させて画素アレイ101にM回出力する第2の工程とが繰り返される。この表示装置の駆動方法の更なる説明は図1を参照して後述されるが、図5においては上記Nの値を4とし、Mの値を1とする。

【0030】

図5に示すように、メモリ回路105はデータの書込みと読み出しどと互いに独立して行える4つのライン・メモリ1~4を備え、水平同期信号H SYNCに同期して表示装置100に順次入力される1ライン毎の映像データ120はこれらのライン・メモリ1~4の一つに順繰りに格納される。換言すれば、メモリ回路105は4ライン分のメモリ容量を有する。例えば、メモリ回路105による4ライン分の映像データ120の取得期間(Acquisition Period) Tinでは、4ライン分の映像データW1, W2, W3, W4がライン・メモリ1からライン・メモリ4に順次入力される。この映像データの取得期間Tinは、映像制御信号121に含まれる水平同期信号H SYNCのパルス間隔で規定される水平走査期間の4倍に相当する時間に亘る。しかしながら、この映像データの取得期間Tinがライン・メモリ4への映像データの格納により終了する前に、この期間にライン・メモリ1、ライン・メモリ2、及びライン・メモリ3に格納された映像データは表示制御回路104により映像データR1, R2, R3として順次読み出される。これにより、4ライン分の映像データW1, W2, W3, W4の取得期間Tinが終了するや否や、次の4ライン分の映像データW5, W6, W7, W8のライン・メモリ1~4への格納が開始できる。

【0031】

上述の説明では、映像データの1ライン毎に付された参照符号をライン・メモリへの入力時とこれから出力時にて、例えば前者のW1に対して後者のR1というように変えている。これは、1ライン毎の映像データが上述の帰線期間を含み、これがライン・メモリ1~4のいずれかから上記水平同期信号H SYNCより周

波数の高い水平クロックCL1に呼応して（同期して）読み出されるとき、これに含まれる帰線期間が縮められることを反映する。従って、例えばライン・メモリ1に入力される1ライン分の映像データ（以下、ライン・データ）W1の時間軸に沿う長さに比べて、これがライン・メモリ1から出力されるときのライン・データR1の時間軸に沿う長さは図5に示される如く短い。ライン・データのライン・メモリへの入力からこれよりの出力に到る期間にて、このライン・データに含まれる映像情報（例えば、画面の水平方向沿いに1ラインの映像を生成する）を加工しなくとも、その時間軸沿いの長さは上述の如く圧縮される。従って、ライン・メモリ1～4からの4ラインの映像データR1, R2, R3, R4の出力の終了時刻とライン・メモリ1～4からの4ラインの映像データR5, R6, R7, R8の出力の開始時刻との間には上述の余剰時間Texが生じる。

【0032】

ライン・メモリ1～4から読み出された4ラインの映像データR1, R2, R3, R4は、ドライバ・データ106としてデータ・ドライバ102に転送され、夫々に応じた表示信号L1, L2, L3, L4が生成される（次に読み出される4ラインの映像データR5, R6, R7, R8についても同様に表示信号L5, L6, L7, L8が生成される）。これらの表示信号は、図5の表示信号出力のアイ・ダイヤグラム（Eye Diagram）に示される順序で、上述の水平クロックCL1に呼応して画素アレイ101に夫々出力される。従って、メモリ回路105に少なくとも上記Nラインの容量を有するライン・メモリ（又はその集合体）を含ませることにより、或るフレーム期間に表示装置に入力される映像データの1ラインを、このフレーム期間内で画素アレイに入力することが可能となり、表示装置の映像データ入力に対する応答速度も高まる。

【0033】

一方、図5から明らかなように、上述の余剰時間Texはライン・メモリから1ラインの映像データを上述の水平クロックCL1に呼応して出力させる時間に相当する。本実施例では、この余剰時間Texを利用して画素アレイに別の表示信号を1回出力する。本実施例による別の表示信号は、これが供給される画素の輝度をその供給前の輝度以下に落とす所謂ブランкиング信号Bである。例えば、1フ

フレーム期間前に比較的高い階調（モノクロ画像表示の場合、白又はこれに近い明るい灰色）で表示された画素の輝度は、ブランкиング信号Bによりこれより低くなる。一方、1フレーム期間前に比較的低い階調（モノクロ画像表示の場合、黒又はこれに近いCharcoal Grayのような暗い灰色）で表示された画素の輝度は、ブランкиング信号Bの入力後も殆ど変わらない。このブランкиング信号Bは、フレーム期間毎に画素アレイに生成された画像を一旦暗い画像（ブランкиング画像）に置き換える。このような画素アレイの表示動作により、ホールド型の表示装置においても、フレーム期間毎にこれに入力される映像データに応じた画像表示をインパルス型表示装置におけるそれのように行える。

【0034】

先述のNラインの映像データを画素アレイに順次出力する第1の工程とブランкиング信号Bを画素アレイにM回出力する第2の工程とを繰り返す表示装置の駆動方法をホールド型の表示装置に適用することにより、このホールド型表示装置による画像表示をインパルス型の表示装置のように行うことができる。この表示装置の駆動方法は、図5を参照して説明した少なくともNライン分の容量を備えたライン・メモリをメモリ回路105として備えた表示装置のみならず、例えば、このメモリ回路105をフレーム・メモリに置き換えた表示装置にも適用できる。

【0035】

このような表示装置の駆動方法について、更に図1を参照して説明する。上述した第1及び第2の工程による表示装置の動作は、図3の表示装置100におけるデータ・ドライバ102による表示信号の出力を規定するが、これに呼応する走査ドライバ103による走査信号の出力（画素行の選択）は次のように記される。以下の説明にて、ゲート線（走査信号線）10に印加され且つこのゲート線に対応する画素行（ゲート線沿いに並ぶ複数の画素PIX）を選択する「走査信号」は、図1に示すゲート線G1, G2, G3, …の夫々に印加される走査信号がHigh状態となる走査信号のパルス（ゲート・パルス）を指す。図9に示されるような画素アレイにおいては、画素PIXに設けられたスイッチング素子SWは、これに接続されたゲート線10を通してゲート・パルスを受けることにより、データ線12から供給される表示信号をこの画素PIXに入力させる。

【0036】

上述の第1の工程に対応する期間では、Nラインの映像データに対応する表示信号の出力毎に、ゲート線のYラインにこれに対応する画素行を選択する走査信号が印加される。従って、走査ドライバ103から走査信号がN回出力される。このような走査信号の印加は、上記表示信号の出力毎にゲート線のYライン置きに画素アレイ101の一端（例えば、図3における上端）からその他端（例えば、図3における下端）に向けて順次行われる。このため、第1の工程では（Y×N）ラインのゲート線に相当する画素行が選択され、その各々に映像データから生成された表示信号が供給される。図1は、Nの値を4とし、Yの値を1としたときの表示信号の出力タイミング（データ・ドライバ出力電圧のアイ・ダイヤグラム参照）とこれに呼応するゲート線（走査線）の夫々に印加される走査信号の波形を示し、この第1工程の期間は、データ・ドライバ出力電圧1～4, 5～8, 9～12, …, 513～516, …の各々に対応する。データ・ドライバ出力電圧1～4に対してG1からG4のゲート線に走査信号が順次印加され、次のデータ・ドライバ出力電圧5～8に対してG5からG8のゲート線に走査信号が順次印加され、更なる時間経過の後のデータ・ドライバ出力電圧513～516に対してG513からG516のゲート線に走査信号が順次印加される。即ち、走査ドライバ103から走査信号出力は、画素アレイ101におけるゲート線10のアドレス番号（G1, G2, G3, …, G257, G258, G259, …, G513, G514, G515, …）が増える方向に向けて順次行われる。

【0037】

一方、上述の第2の工程に対応する期間では、ブランкиング信号として上述した表示信号のM回の出力毎に、ゲート線のZラインにこれに対応する画素行を選択する走査信号が印加される。従って、走査ドライバ103から走査信号がM回出力される。走査ドライバ103からの走査信号の1回の出力に対し、この走査信号が印加されるゲート線（走査線）の組み合わせは特に限定されないが、第1の工程で画素行に供給された表示信号をこれに長く保持させることや、データ・ドライバ102に掛かる負荷を軽減することを鑑みれば、表示信号の出力毎に走査信号をゲート線のZライン置きに順次印加するとよい。第2工程におけるゲート線へ

の走査信号の印加は、第1工程のそれと同様に画素アレイ101の一端からその他端に向けて順次行われる。このため、第2の工程では($Z \times M$)ラインのゲート線に相当する画素行が選択され、その各々にブランкиング信号が供給される。図1は、Mの値を1とし、Zの値を4としたときの上記第1の工程の夫々に続く第2の工程の各々におけるブランкиング信号Bの出力タイミングとこれに呼応するゲート線(走査線)の夫々に印加される走査信号の波形を示す。G1からG4のゲート線に走査信号が順次印加される第1の工程に続く第2の工程では1回のブランкиング信号B出力に対してG257からG260に到る4本のゲート線に走査信号が、G5からG8のゲート線に走査信号が順次印加される第1の工程に続く第2の工程では、1回のブランкиング信号B出力に対してG261からG264に到る4本のゲート線に走査信号が、G513からG516のゲート線に走査信号が順次印加される第1の工程に続く第2の工程では、1回のブランкиング信号B出力に対してG1からG4に到る4本のゲート線に走査信号が、夫々印加される。

【0038】

上述のように第1の工程では4本のゲート線の各々に走査信号を順次印加し、第2の工程では4本のゲート線に一斉に走査信号を印加するため、例えばデータ・ドライバ102からの表示信号出力に呼応して、走査ドライバ103の動作を夫々の工程に合わせる必要がある。先述したように本実施例で用いられる画素アレイはWXGAクラスの解像度を有し、768ラインのゲート線がこれに並設される。一方、第1の工程で順次選択される4本のゲート線群(例えば、G1からG4)とこれに続く第2の工程で選択される4本のゲート線群(例えばG257からG260)とは、画素アレイ101におけるゲート線10のアドレス番号が増える方向に沿い252本のゲート線にて離間される。従って、画素アレイに並設された768ラインのゲート線をその垂直方向(又は、データ線の延伸方向)に沿い、256ライン毎に3つの群に分割し、夫々の群毎に走査ドライバ103からの走査信号の出力動作を独立して制御する。このため、図3に示す表示装置では、画素アレイ101沿いに3つの走査ドライバ103-1, 103-2, 103-3を配置し、夫々からの走査信号の出力動作を走査状態選択信号114-1, 114-2, 114-3で制御する。例えば、第1の工程でゲート線G1～G4を、これに続く第2の工程でゲート線G257～G260を夫々選択

する場合、走査状態選択信号114-1は走査ドライバ103-1に、走査クロックCL3の連続する4パルスに対するゲート線を1ラインずつ順次選択する走査信号出力と、これに続く走査クロックCL3の1パルスに対する走査信号の出力休止とを繰り返す走査状態を指示する。一方、走査状態選択信号114-2は走査ドライバ103-2に、走査クロックCL3の連続する4パルスに対する走査信号の出力休止と、これに続く走査クロックCL3の1パルスに対する4ラインのゲート線への走査信号出力とを繰り返す走査状態を指示する。また、走査状態選択信号114-3は走査ドライバ103-3に入力される走査クロックCL3を無効にし、これによる走査信号出力を休止させる。夫々の走査ドライバ103-1, 103-2, 103-3には、走査状態選択信号114-1, 114-2, 114-3による上述の2つの指示に対応する2つの制御信号伝達網が備えられる。

【0039】

一方、図1に示される走査開始信号FLMの波形は、時刻t1とt2とで夫々立ち上がる2つのパルスを含む。上記第1の工程による一連のゲート線選択動作は時刻t1に生じる走査開始信号FLMのパルス(Pulse 1と記す、以下、第1パルス)に呼応して、上記第2の工程による一連のゲート線選択動作は時刻t2に生じる走査開始信号FLMのパルス(Pulse 2と記す、以下、第2パルス)に呼応して、夫々開始される。走査開始信号FLMの第1パルスは、1フレーム期間の映像データの表示装置への入力開始(上記垂直同期信号VSYNCのパルスで規定される)にも呼応する。従って、走査開始信号FLMの第1パルス及び第2パルスは、フレーム期間毎に繰り返して生じる。さらに、走査開始信号FLMの第1パルスとこれに続く第2パルスの間隔と、この第2パルスとこれに続く(例えば、次のフレーム期間の)第1パルスとの間隔とを調整することにより、1フレーム期間にて画素アレイに映像データに基づく表示信号を保持する時間を調整できる。換言すれば、走査開始信号FLMに生じる第1パルスと第2パルスとを含めたパルス間隔は、2つの異なる値(時間幅)を取りえる。一方、この走査開始信号FLMは、表示制御回路(タイミング・コントローラ)104で発生される。以上のことから、上記走査状態選択信号114-1, 114-2, 114-3は表示制御回路104において走査開始信号FLMを参照して生成できる。

【0040】

図1に示される映像データを1ライン毎に画素アレイへ4回書込む毎にブランкиング信号を画素アレイへ1回書込む動作は、図5を参照して説明したように4ライン分の映像データを表示装置に入力する時間内に完結する。また、これに呼応して、走査信号を画素アレイへ5回出力する。このため、画素アレイの動作に要する水平期間は映像制御信号121の水平走査期間の4/5となる。このようにして、1フレーム期間に表示装置に入力される映像データ（これに基づく表示信号）とブランкиング信号との画素アレイ内の全画素への入力は、この1フレーム期間にて完結する。

【0041】

図1に示したブランкиング信号は、表示制御回路104又はその周辺回路で擬似的な映像データ（以下、ブランкиング・データ）を生成し、これをデータ・ドライバ102に転送して、データ・ドライバ102内で生成させても、予めデータ・ドライバ102にブランкиング信号を生成させる回路を設け、表示制御回路104から転送される水平クロックCL1の特定のパルスに応じてブランкиング信号を画素アレイ101に出力させてもよい。前者の場合、表示制御回路104又はその周辺にフレーム・メモリを設け、これに格納されるフレーム期間毎の映像データからブランкиング信号を強めるべき画素（この映像データにより高い輝度で表示される画素）を表示制御回路104により特定させ、画素に応じて暗さの異なるブランкиング信号をデータ・ドライバ102に生成させるブランкиング・データを生成させてもよい。後者の場合は、データ・ドライバ102にて水平クロックCL1のパルス数をカウントさせ、そのカウント数に応じて画素を黒又はこれに近い暗い色（例えば、Charcoal Grayのような色）に表示させる表示信号を出力させる。液晶表示装置の一部は、画素の輝度を決める複数の階調電圧を表示制御回路（タイミング・コンバータ）104にて生成する。このような液晶表示装置においては、複数の階調電圧をデータ・ドライバ102にて転送し、データ・ドライバ102により映像データに応じた階調電圧を選択させ且つ画素アレイに出力させるが、同様にして、データ・ドライバ102による水平クロックCL1のパルスに応じた階調電圧の選択でブランкиング信号を発生させてもよい。

【0042】

図1に示された本発明による画素アレイへの表示信号の出力方法(Outputting Manner)及びこれに呼応する夫々のゲート線(走査線)への走査信号の出力方法は、入力される走査状態選択信号114に応じて複数のゲート線に同時に走査信号を出力する機能を有する走査ドライバ103を備えた表示装置を駆動するに好適である。一方、走査ドライバ103-1, 103-2, 103-3の夫々に上述の如く複数の走査線へ同時に走査信号を出力させることなく、走査クロックCL3のパルス毎にゲート線(走査線)の1ライン毎に走査信号を順次出力させても本実施例による画像表示動作を行うことができる。このような走査ドライバ103の動作により、4ラインの映像データを1ラインずつ画素行の1つに順次入力する(映像データが4回出力される上記第1工程)毎にブランкиング・データを別の画素行の4つに入力する(ブランкиング・データが1回出力される上記第1工程)ことを繰り返す本実施例の画像表示動作は、図4に示される表示信号と走査信号との夫々の出力波形で説明される。

【0043】

図4を参照して説明される表示装置の駆動方法は、図1と同様に図3に示された表示装置が参照される。走査ドライバ103-1, 103-2, 103-3の各々は、走査信号を出力する端子を256個備える。換言すれば、各走査ドライバ103は最大256ラインのゲート線に走査信号を出力できる。一方、画素アレイ101(例えば、液晶表示パネル)には768ラインのゲート線10とその夫々に対応する画素行が設けられる。このため、3つの走査ドライバ103-1, 103-2, 103-3は画素アレイ101の垂直方向(これに設けられたデータ線12の延伸方向)に沿う一辺に順次並ぶ。走査ドライバ103-1はゲート線群G1~G256に、走査ドライバ103-2はゲート線群G257~G512に、走査ドライバ103-3はゲート線群G513~G768に走査信号を夫々出力し、表示装置100の全画面(画素アレイ101の全域)における画像表示を制御する。図1を参照して説明された駆動方法が適用される表示装置と図4を参照して以下に説明される駆動方法が適用される表示装置とは、以上の走査ドライバ配置を有することで共通する。また、走査開始信号FLMの波形が映像データを画素アレイに入力する一連の走査信号出力を開始させる第1パルスとブランキン

グ・データを画素アレイに入力する一連の走査信号出力を開始させる第2パルスとフレーム期間毎に含むことで、図1を参照して説明された表示装置の駆動方法と図4を参照して説明されるそれとは共通する。さらに、走査ドライバ103が上記走査開始信号F LMの第1パルス及び第2パルスの夫々を走査クロックCL3で取り込み、その後、走査クロックCL3に呼応して走査信号を出力すべき端子（又は端子群）を映像データ又はブランкиング・データの画素アレイへの取り込み（Acquisition）に応じて順次シフトすることでも、図1の信号波形に拠る表示装置の駆動方法と図4の信号波形に拠るそれとは共通する。

【0044】

しかし、図4を参照して説明される本実施例の表示装置の駆動方法では、走査状態選択信号114-1, 114-2, 114-3の役割が図1を参照して説明されたそれらと相違する。図4には、走査状態選択信号114-1, 114-2, 114-3の夫々の波形がDISP1, DISP2, DISP3として示される。走査状態選択信号114は、まず、その各々が制御する領域（例えば、DISP2の場合、ゲート線群G257～G512に対応する画素群）に適用される動作条件に応じて、この領域における走査信号の出力動作を決める。図4において、データ・ドライバ出力電圧が4ラインの映像データに応じた表示信号L513～L516の出力を示す期間（表示信号L513～L516が出力される上記第1工程）では、これらの表示信号が入力される画素行に対応したゲート線G513～G516に走査ドライバ103-3から走査信号が印加される。このため、走査ドライバ103-3に転送される走査状態選択信号114-3は、走査クロックCL3に呼応して（1回のゲート・パルス出力毎に）ゲート線G513～G516の1ライン毎に順次走査信号を出力する所謂1ライン毎のゲート線選択を行う。これによりゲート線G513に対応する画素行に表示信号L513が、次いでゲート線G514に対応する画素行に表示信号L514が、さらにゲート線G515に対応する画素行に表示信号L515が、最後にゲート線G516に対応する画素行に表示信号L516が夫々1水平期間（水平クロックCL1のパルス間隔で規定される）に亘り供給される。

【0045】

一方、この表示信号L513～L516が水平期間毎に（水平クロックCL1のパルスに呼応して）順次出力される第1工程に続く上記第2工程では、この第1工程に

対応する4水平期間に続く1水平期間にブランкиング信号Bが出力される。本実施例では、表示信号L516出力と表示信号L517出力との間に出力されるブランкиング信号Bをゲート線群G5～G8に対応する画素行の夫々に供給する。このため、走査ドライバ103-1は、このブランкиング信号Bの出力期間にゲート線G5～G8の4ライン全てに走査信号を印加する所謂4ライン同時のゲート線選択を行わねばならない。しかしながら、図4に拠る画素アレイの表示動作では、上述の如く、走査ドライバ103は走査クロックCL3に呼応して（その1回のパルスに対して）1本のゲート線のみへの走査信号印加を開始するが、複数のゲート線には走査信号印加開始しない。換言すれば、走査ドライバ103は複数のゲート線の走査信号パルスを同時に立ち上げない。

【0046】

このため、走査ドライバ103-1に転送される走査状態選択信号114-1は、走査信号を印加すべきゲート線のZラインの少なくとも（Z-1）ラインにブランкиング信号Bの出力前に走査信号を印加し、且つ走査信号の印加時間（走査信号のパルス幅）を水平期間の少なくともN倍の期間に延ばすように走査ドライバ103-1を制御する。この変数Z、Nは、上述の映像データを画素アレイに書き込む第1工程及びブランкиング・データを画素アレイに書き込む第2工程の説明で記した第2工程におけるゲート線の選択数：Z、及び第1工程における表示信号の出力回数：Nである。例えば、ゲート線G5には表示信号L514の出力開始時刻から、ゲート線G6には表示信号L515の出力開始時刻から、ゲート線G7には表示信号L516の出力開始時刻から、ゲート線G8には表示信号L516の出力終了時刻（これに続くブランкиング信号B出力開始時刻）から水平期間の5倍の期間に亘って走査信号が夫々印加される。換言すれば、走査ドライバ103によるゲート線群G5～G8のゲート・パルスの夫々の立ち上がり時刻は、走査クロックCL3に呼応させて1水平期間毎に順次ずらされるも、夫々のゲート・パルスの夫々の立ち下がり時刻を立ち上がり時刻のN水平期間以降に遅らせることで、上記ブランкиング信号出力期間にゲート線群G5～G8のゲート・パルスの全てを立ち上がった（図4ではHighの）状態にする。このようにゲート・パルスの出力を制御する上で、走査ドライバ103にシフトレジスタ動作機能を含ませることが望ましい。なお、対応する画素

行にブランкиング信号が供給されるゲート線G1～G12のゲート・パルスに示されたハッチング領域については後述する。

【0047】

これに対し、この期間（表示信号L513～L516が出力される上記第1工程）及びこれに続く第2工程の間に、走査ドライバ103-2から走査信号を受けるゲート線群G257～G512の夫々に対応する画素行には表示信号が供給されない。このため、走査ドライバ103-2に転送される走査状態選択信号114-2は、この第1工程及び第2工程に亘る期間にて走査クロックCL3を走査ドライバ103-2に対して無効（Ineffective for the Scanning Driver 103-2）にする。このような走査状態選択信号114による走査クロックCL3の無効化は、これが転送される走査ドライバ103から走査信号が出力される領域内の画素群に表示信号やブランкиング信号を供給する場合においても所定のタイミングで適用してもよい。図4には、走査ドライバ103-1での走査信号出力に応じた走査クロックCL3の波形が示される。この走査クロックCL3のパルスは、表示信号やブランкиング信号の出力間隔を規定する水平クロックCL1のパルスに呼応して生じるもの、表示信号L513, L517, …の出力開始時刻にはパルスが生じない。このように表示制御回路104から走査ドライバ103に転送される走査クロックCL3を特定の時刻にて無効にする動作を、走査状態選択信号114で行うことができる。走査ドライバ103に対する走査クロックCL3の部分的な無効化は、これに応じた信号処理経路を走査ドライバ103に組み込み、この信号処理経路の動作を走査ドライバ103に転送される走査状態選択信号114で開始させてもよい。なお、図4には示されないが、映像データの画素アレイへの書き込みを制御する走査ドライバ103-3もブランкиング信号Bの出力開始時刻にて走査クロックCL3に対して不感となる。これにより、ブランкиング信号Bの出力による第2工程に続く第1工程で映像データに拠る表示信号が供給される画素行に走査ドライバ103-3がブランкиング信号を誤って供給することが防げる。

【0048】

次に、走査状態選択信号114は、夫々が制御する領域にて順次生成される走査信号のパルス（ゲート・パルス）を、これがゲート線に出力される段階で無効に

する。この機能は、図4による表示装置の駆動方法にて、ブランкиング信号を画素アレイに供給する走査ドライバ103内の信号処理に、これに転送された走査状態選択信号114を関与させる。図4に示される3つの波形DISP1, DISP2, DISP3は、走査ドライバ103-1, 103-2, 103-3の夫々の内部における信号処理に関与する走査状態選択信号114-1, 114-2, 114-3を示し、これがLow-levelにあるときゲート・パルスの出力を有効にする。また、走査状態選択信号114-1の波形DISP1は、上述の第1工程による画素アレイへの表示信号出力期間中にてHigh-levelとなり、この期間内に走査ドライバ103-1で生じるゲート・パルスの出力を無効にする。

【0049】

例えば、表示信号L513～L516が画素アレイに供給される4水平期間にてゲート線G1～G7に夫々応じた走査信号に生じるゲート・パルスは、この期間にHigh-levelとなる走査状態選択信号DISP1により、夫々の出力をハッチングされたように無効にされる。これにより、或る期間にてブランкиング信号を供給すべき画素行に映像データに拠る表示信号が誤って供給されることを防ぎ、これらの画素行によるブランкиング表示（これらの画素行に表示されていた映像の消去）を確実に行い、また、映像データに拠る表示信号自体の強度の損失を防ぐ。また、表示信号L513～L516を出力する4水平期間と表示信号L517～L520を出力する次の4水平期間との間のブランкиング信号Bを出力する1水平期間にて、走査状態選択信号DISP1はLow-levelとなる。これにより、この期間にゲート線G5～G8に夫々応じた走査信号に生じるゲート・パルスは、一斉に画素アレイに出力され、この4ラインのゲート線に応じた画素行を同時に選択して、その各々にブランкиング信号Bを供給する。

【0050】

以上のように、図4による表示装置の表示動作では、走査状態選択信号114により、これが転送される走査ドライバ103の動作状態（上記第1工程及び上記第2工程のいずれかによる動作状態、又は、これらのいずれにも拠らない非動作状態）のみならず、その動作状態に応じて走査ドライバ103で生成されたゲート・パルスの出力の有効性も決められる。なお、これらの走査状態選択信号114によ

る走査ドライバ103（これから走査信号出力）の一連の制御は、画素アレイへの映像データに拠る表示信号書き込み及びブランкиング信号書き込みのいずれに対しても走査開始信号F LMに呼応してゲート線G1に対する走査信号出力から開始される。図4には、走査開始信号F LMの上記第2パルスに呼応して、走査状態選択信号DISP1により順次シフトする走査ドライバ103によるゲート線のライン選択動作（4ライン同時選択動作）を主に示す。図4には示されないものの、これによる表示装置の動作にて、走査ドライバ103によるゲート線の1ライン毎選択動作も走査開始信号F LMの第1パルスに呼応させて順次シフトする。このため、図4における表示装置の動作でもフレーム期間毎に走査開始信号F LMで2種類の画素アレイの走査を1度ずつ開始させる必要があり、走査開始信号F LMの波形には第1パルスとこれに続く第2パルスとが現われる。

【0051】

以上に述べた図1及び図4による表示装置の駆動方法のいずれにおいても、画素アレイ101の一辺沿いに並ぶ走査ドライバ103及びこれに送られる走査状態選択信号114の数は図3や図9を参照して説明した画素アレイ101の構造を変えることなく変更可能であり、3つの走査ドライバ103に分担させた夫々の機能を一つの走査ドライバ103にまとめてよい（例えば、走査ドライバ103内部を上記3つの走査ドライバ103-1, 103-2, 103-3の夫々に応じた回路セクションに分ける）。

【0052】

図6は、本実施例の表示装置による画像表示タイミングを連続する3つのフレーム期間に亘り示すタイミング・チャートである。各フレーム期間の冒頭にて、1番目の走査線（上記ゲート線G1に相当）からの画素アレイへの映像データ書き込みが走査開始信号F LMの第1パルスにより開始され、この時刻から時間： Δt_1 が経過した後、この1番目の走査線からの画素アレイへのブランкиング・データ書き込みが走査開始信号F LMの第2パルスにより開始される。さらに、走査開始信号F LMの第2パルスの発生時刻から時間： Δt_2 が経過した後、次のフレーム期間に表示装置に入力される映像データの画素アレイへの書き込みが走査開始信号F LMの第1パルスにより開始される。なお、本実施例においては、図6に示された時間： $\Delta t_1'$ は時間： Δt_1 と同じであり、時間： $\Delta t_2'$ は時間：

Δt_2 と同じである。画素アレイへの映像データ書込みの進行とブランкиング・データ書込みのそれとは、双方が1水平期間にて選択するゲート線のライン数（前者1ライン、後者4ライン）が相違するも、時間経過に対して略同様に進行する。このため、画素アレイにおける走査線の位置に依らず、その夫々に対応する画素行が映像データに拠る表示信号を保持する期間（これを受ける時間を含めて概ね上記時間： Δt_1 に亘る）とこの画素行がブランкиング信号を保持する期間（これを受ける時間を含めて概ね上記時間： Δt_2 に亘る）とは画素アレイの垂直方向に亘り概ね一様となる。換言すれば、画素アレイにおける画素行間（垂直方向沿い）の表示輝度のばらつきが抑えられる。本実施例では、図6に示すように画素アレイにおける映像データの表示期間とブランкиング・データの表示期間とに、1フレーム期間の67%と33%とを夫々割り当て、これに応じた走査開始信号FLMのタイミング調整した（上記時間 Δt_1 と Δt_2 とを調整した）が、この走査開始信号FLMのタイミングの変更により、映像データの表示期間とブランкиング・データの表示期間とは適宜変更され得る。

【0053】

このような、図6に拠る画像表示タイミングで表示装置を動作させたときの、画素行の輝度応答の一例を図7に示す。この輝度応答は、図3の画素アレイ101としてWXGAクラスの解像度を有し且つノーマリ黒表示モードで動作する液晶表示パネルを用い、映像データとして画素行を白く表示する表示オンデータを、ブランкиング・データとして画素行を黒く表示する表示オフデータを夫々書き込む。従って、図7の輝度応答は、この液晶表示パネルの画素行に対応する液晶層の光透過率の変動を示す。図7に示すように画素行（これに含まれる各画素）は1フレーム期間にて、まず映像データに応じた輝度に応答し、その後、黒輝度に応答する。液晶層の光透過率はこれに印加される電界の変動に対して比較的緩く応答するも、その値は図7から明らかなようにフレーム期間毎に映像データに対応する電界及びブランкиング・データに対応する電界のいずれにも十分に応答する。従って、フレーム期間に画面（画素行）に生成された映像データによる画像は、この画像がフレーム期間内に画面（画素行）から十分に消去されて、インパルス型の表示装置と同様な状態で表示される。このような映像データによる画像

のインパルス型の応答により、これに生じる動画ぼやけを低減することが可能となる。このような効果は、画素アレイの解像度を変更しても、図2に示すドライバ・データの水平期間における帰線期間の割合を変更しても同様に得られる。

【0054】

以上に述べた本実施例では、上述の第1工程で映像データの1ライン毎に生成される表示信号を画素アレイに4回順次出力し且つその夫々をゲート線の1ラインに相当する画素行に順次供給し、これに続く第2工程でブランкиング信号を画素アレイに1回順次出力し且つこれをゲート線の4ラインに相当する画素行に供給した。しかし、第1工程における表示信号の出力回数：N（この値は、画素アレイに書き込まれるライン・データの数にも相当する）は4に限られず、第2工程におけるブランкиング信号の出力回数：Mは1に限られない。また、第1工程にて1回の表示信号出力に対して走査信号（選択パルス）が印加されるゲート線のライン数：Yは1に限られず、第2工程にて1回のブランкиング信号出力に対して走査信号が印加されるゲート線のライン数：Zは4に限られない。これらの因子N、Mは、M<Nなる条件を満たす自然数であり且つNは2以上である条件を満たすことが要請される。また、因子YはN/Mより小さい自然数であること、因子ZはN/M以上の自然数であることが夫々要請される。また、N回の表示信号出力とM回のブランкиング信号出力とを行う1周期をNラインの映像データが表示装置に入力される期間内に完結させる。換言すれば、画素アレイの動作における水平期間の（N+M）倍の値を、映像データの表示装置への入力における水平走査期間のN倍の値以下にする。前者の水平期間は水平クロックCL1のパルス間隔で、後者の水平走査期間は映像制御信号の一つである水平同期信号HSYNCのパルス間隔で夫々規定される。

【0055】

このような画素アレイの動作条件によれば、Nラインの映像データが表示装置に入力される期間Tinにデータ・ドライバ102から（N+M）回の信号出力、即ち上述の第1工程及びこれに続く第2工程からなる1周期の画素アレイ動作を行う。このため、この1周期にて表示信号出力及びブランкиング信号出力の各々に割り当てられる時間（以下、Tinvention）は、期間TinにNラインの映像データ

タに応じた表示信号を順次出力するときの1回の信号出力に要する時間（以下、 T_{prior} ）の $(N / (N+M))$ 倍に減少する。しかしながら、上述のように因子MはNより小さい自然数であるため、本発明による上記1周期での各信号を出力期間 $T_{invention}$ は上記 T_{prior} の $1/2$ 以上の長さを確保できる。即ち、画素アレイへの映像データへの書き込みの観点では、上述の特開2001-166280号公報に記載された技法に対する上述のSID 01 Digest, pages 994-997に記載された技法の利点が得られる。

【0056】

さらに、本発明では、上記期間 $T_{invention}$ にて画素にブランкиング信号を供給することにより、この画素の輝度を素早く低下させる。このため、SID 01 Digest, pages 994-997に記載された技法に比べて、本発明に依れば1フレーム期間における各画素行の映像表示期間とブランкиング表示期間とが明瞭に分かれ、動画ぼやけも効率的に低減される。また、本発明ではブランкиング信号の画素への供給を $(N+M)$ 回毎に間欠的に行うものの、1回のブランкиング信号出力に対してZラインのゲート線に対応する画素行にこれを供給することにより、画素行間に生じる映像表示期間とブランкиング表示期間との比率のばらつきを抑える。さらに、ブランкиング信号出力毎に対して走査信号をゲート線のZライン置きに順次印加すれば、データ・ドライバ102からのブランкиング信号の1回の出力に対する負荷も、このブランкиング信号が供給される画素行数の制限により軽減される。

【0057】

従って、本発明による表示装置の駆動は、図1乃至7を参照して説明した上述のNを4、Mを1、Yを1、及びZを4にした例に限られず、上述の条件を満たす限りにおいて、ホールド型の表示装置の駆動全般に汎く適用し得る。例えば、インターレース方式で映像データをフレーム期間毎に奇数ライン又は偶数ラインのいずれか一方を表示装置に入力する場合、奇数ライン又は偶数ラインの映像データを1ライン毎に走査信号をゲート線の2ライン毎に順次印加し、これらに対応する画素行に表示信号を供給してもよい（この場合、少なくとも上記因子Yは2となる）。また、本発明による表示装置の駆動では、その水平クロックCL1の

周波数を水平同期信号H SYNCのそれの $((N+M)/N)$ 倍（上述の図1や図4の例では1.25倍）にしたが、水平クロックCL1の周波数をこれ以上に高め、そのパルス間隔を詰めて画素アレイの動作マージンを確保してもよい。この場合、表示制御回路104やその周辺にパルス発振回路を設け、これにより発生される映像制御信号に含まれるドット・クロックDOTCLKより周波数の高い基準信号を参照して水平クロックCL1の周波数を高めてもよい。

【0058】

以上のべた夫々の因子は、Nを4以上の自然数にするとよく、また、因子Mを1にするとよい。また、因子YをMと同じ値にするとよく、因子ZをNと同じ値にするとよい。

【0059】

《第2の実施例》

本実施例においても、上述の第1の実施例と同様に図3の表示装置に図2のタイミングで入力された映像データを、図1又は図4に示す波形で表示信号及び走査信号をデータ・ドライバ102から出力し且つ図6に示す表示タイミングに則り表示するが、図1や図4に示す映像データに拠る表示信号の出力に対するブランкиング信号の出力タイミングを図8に示す如く、フレーム期間毎に変える。

【0060】

画素アレイとして液晶表示パネルを用いる表示装置において、図8に示す本実施例のブランкиング信号の出力タイミングは、このブランкиング信号が供給された液晶表示パネルのデータ線に生じる信号の波形鈍りの影響を分散する効果を奏し、これにより画像の表示品質を高める。図8には、水平クロックCL1のパルスの夫々に対応する期間 Th_1, Th_2, Th_3, \dots が横方向に順次並び、これらの期間のいずれかでデータ・ドライバ102から出力される映像データの1ライン毎の表示信号 $m, m+1, m+2, m+3, \dots$ 及びブランкиング信号Bを含むアイ・ダイヤグラムが連続するフレーム期間 $n, n+1, n+2, n+3, \dots$ 毎に縦方向に順次並ぶ。ここで示す表示信号 $m, m+1, m+2, m+3$ は特定のラインの映像データに限定せず、例えば図1の表示信号L1, L2, L3, L4にも、表示信号L511, L512, L513, L514にも対応し得る。

【0061】

第1の実施例にて述べた要領で画素アレイに映像データを4回書込むごとにブランкиング・データを1回書込む場合、図8に示す画素アレイへのブランкиング・データの印加を上記期間Th1, Th2, Th3, Th4, Th5, Th6, …における4期間置きに並ぶ期間のいずれかの群（例えば、期間Th1, Th6, Th12, …の群）から別の群（例えば、期間Th2, Th7, Th13, …の群）へフレーム毎に順次変化させる。例えば、フレーム期間nではm番目のライン・データを画素アレイに入力する（これに拠る表示信号をm番目の画素行に印加する）前にブランкиング・データを画素アレイに入力し（ゲート線の所定の4ラインに相当する画素行に印加し）、フレーム期間n+1ではm番目のライン・データの画素アレイへの入力後且つ（m+1）番目のライン・データの画素アレイへの入力前に上述のブランкиング・データの画素アレイへの入力を行う。（m+1）番目のライン・データの画素アレイへの入力は、m番目のライン・データのそれに倣い、（m+1）番目のライン・データに拠る表示信号を（m+1）番目の画素行に印加する。以降の各ライン・データの画素アレイへの入力も、このライン・データに拠る表示信号をこれと同じアドレス（順番）を持つ画素行に印加する。

【0062】

フレーム期間n+2では、（m+1）番目のライン・データの画素アレイへの入力後且つ（m+2）番目のライン・データの画素アレイへの入力前に上述のブランкиング・データの画素アレイへの入力を行う。続くフレーム期間n+3では、（m+2）番目のライン・データの画素アレイへの入力後且つ（m+3）番目のライン・データの画素アレイへの入力前に上述のブランкиング・データとの画素アレイへの入力を、ブランкиング・データとのタイミングを1水平期間毎にずらしながら繰り返し、フレーム期間n+4にてフレーム期間nによるライン・データとブランкиング・データとの画素アレイへの入力パターンに戻る。これら一連の動作の繰り返しで、ブランкиング信号のみならずライン・データに拠る表示信号が画素アレイのデータ線の夫々に出力されたときの、データ線の延伸方向沿いに生じるこれらの信号波形の鈍りの影響を一様に分散して、画素

アレイに表示される画像の品質を高める。

【0063】

一方、本実施例でも、第1の実施例と同様に図6に拠る画像表示タイミングで表示装置を動作させることができるが、上述のように画素アレイへのブランкиング信号の印加タイミングがフレーム期間毎にシフトされるため、ブランкиング信号による画素アレイの走査を開始させる走査開始信号FLMの第2パルスの発生時刻もフレーム期間に応じて変位する。このような走査開始信号FLMの第2パルス発生タイミングの変動に応じて、図6のフレーム期間1に示される時間： Δt_1 がこれに続くフレーム期間2にて時間： Δt_1 より短い（又は長い）時間： $\Delta t_1'$ となり、フレーム期間1に示される時間： Δt_2 がこれに続くフレーム期間2にて時間： Δt_2 より長い（又は短い）時間： $\Delta t_2'$ となる。図8に示される一対のフレーム期間nとn+1や別の一対のフレーム期間n+3とn+4に見られるライン・データmに拠る表示信号での画素アレイの走査開始時刻の「ずれ」を考慮すれば、本実施例において、走査開始信号FLMのパルス間隔に応じた2つの時間間隔： Δt_1 、 Δt_2 の少なくとも一方がフレーム期間に応じて変動する。

【0064】

以上のように、フレーム期間毎にブランкиング信号の出力期間を時間軸方向沿いにシフトさせる本実施例による表示装置の駆動方法に則り、図6に示す画像表示タイミングに倣う表示動作を行う場合、その走査開始信号の設定に若干の変更を要するが、これに依り得られる効果は図7に示した第1の実施例におけるそれと何ら遜色がない。従って、本実施例においても映像データに応じた画像をインパルス型の表示装置におけるそれと略同様にしてホールド型の表示装置に表示できる。また、ホールド型の画素アレイより、動画像をその輝度は損なうことなく且つこれに生じる動画ぼやけを低減して表示することも可能となる。本実施例においても、1フレーム期間における映像データの表示期間とブランкиング・データの表示期間との比率を、走査開始信号FLMのタイミングの調整（例えば、上述のパルス間隔： Δt_1 、 Δt_2 の配分）により適宜変更できる。また、本実施例による駆動方法の表示装置への適用範囲も、第1の実施例のそれと同様に、画

素アレイ（例えば、液晶表示パネル）の解像度により制限されない。さらに、本実施例による表示装置は第1の実施例によるそれと同様に、水平クロックCL1に規定される水平期間に含まれる帰線期間の比率を適宜変更することで、上記第1工程における表示信号の出力回数：Nや第2工程にて選択されるゲート線のライン数：Zを増やせ又は減らせる。

【0065】

《第3の実施例》

図10は、本発明による液晶表示装置の他の実施例を示す図で、図8と対応した図となっている。

【0066】

すなわち、図10も図8と同様に、図1又は図4に示す波形で表示信号及び走査信号をデータ・ドライバ102から出力し且つ図6に示す表示タイミングに則り表示するが、図1や図4に示す映像データに拠る表示信号の出力に対するブランкиング信号の出力タイミングをフレーム期間毎に変える。

【0067】

この場合、順次出力されるN回分の表示信号に含まれるブランкиング信号Bは時間軸と直交する方向に並列されることなく出力タイミングをずらしている。換言すれば、図8に示したように、水平クロックCL1のパルスの夫々に対応する期間Th1, Th2, Th3, …において、nフレームのブランкиング信号が期間Th1に宛がわれ、(n+1)フレームのブランкиング信号が期間Th3に宛がわれ、(n+2)フレームのブランкиング信号が期間Th4に宛がわれ、さらに(n+3)フレームのブランкиング信号が期間Th5に宛がわれるようになっている。

【0068】

すなわち、前記期間Th1, Th2, Th3, …のうちそのいずれにおいても、前記順次出力されるN回分の表示信号に含まれるブランкиング信号Bは1個のみ存在するようになっている。さらに換言すれば、前記ブランкиング信号Bは、その出力がフレーム毎の表示にて異なる時間をずらしてなされる。

【0069】

そして、図8において示されなかった構成として、前記表示信号はいわゆる交

流信号化されたものとなっている。すなわち、図10において、nフレーム目の表示信号においてブランкиング信号Bと次のブランкиング信号Bとの間に出力されるmからm+3の各ラインの映像データは、mラインにおいて-、m+1ラインにおいて+、m+2ラインにおいて-、さらにm+3ラインにおいて+というように極性を変換させている。

【0070】

ここで、mラインにおいて-とは、その-の極性を先頭にしてライン方向に各画素単位で順次+、-、+、-、……と極性が変化し、m+1ラインにおいて+とは、その+の極性を先頭にしてライン方向に各画素単位で順次-、+、-、+、……と極性が変化し、m+2ラインにおいて-とは、その-の極性を先頭にしてライン方向に各画素単位で順次+、-、+、-、……と極性が変化し、m+3ラインにおいて+とは、その+の極性を先頭にしてライン方向に各画素単位で順次-、+、-、+、……と極性が変化することを意味する。

【0071】

また、各画素において極性が+であるということは画素電極PXに印加される電圧が対向電極CTに対して正極となることを意味し、極性が-であるということは画素電極PXに印加される電圧が対向電極CTに対して負極となることを意味する。

【0072】

これにより、ある画素における極性が+となる場合、その行方向に隣接する他の画素および列方向に隣接する他の画素における極性は-となり、ある画素における極性が-となる場合、その行方向に隣接する他の画素および列方向に隣接する他の画素における極性は+となるいわゆるドット反転の交流化が実現する。

【0073】

そして、このような極性の変化はブランкиング信号Bにおいても同様となっている。しかし、あるブランкиング信号Bの極性が該ブランкиング信号Bの次に出力される映像データの極性に対して逆の極性になっていることが重要となる。すなわち、図10において、フレーム期間毎に出力タイミングをずらして配列されるブランкиング信号Bの極性はたまたま+となっているが、これら各ブランкиング信号Bの次に出力される映像データの極性は-となっている。

【0074】

図11から図33は、それぞれ液晶表示装置の駆動方法の他の実施例を示す図で、図10に対応した図となっている。

【0075】

これら各図は、そのいずれも、上述したように、ブランкиング信号Bは時間軸と直交する方向に並列されることなく出力タイミングを時間的にずらし、いわゆるドット反転駆動を行なうとともに、ブランкиング信号Bの極性を該ブランкиング信号Bの次に出力される映像データの極性に対して逆の極性とすることを満足させたものとなっている。

【0076】

すなわち、図11から図33のそれぞれは、図10の場合と比較して各フレームにおけるブランкиング信号Bが他のフレームのブランкиング信号Bに対する時間的ずれが異なり、これにともなって該ブランкиング信号Bの極性も異なっている。

【0077】

しかし、映像データの極性は全てドット反転駆動を行ない得るように割り振られ、これに基づいて各ブランкиング信号Bの極性は該ブランкиング信号Bの次に出力される映像データの極性に対して逆の極性となっていることは同じである。

【0078】

この第3の実施例に示した各液晶表示装置の駆動方法は、いわゆるドット反転駆動を行なう場合を前提として、ブランкиング信号Bをフレーム期間毎に出力タイミングをずらすことによるさらなる表示品質の向上を図っている。より詳細に示せば、表示において背景よりも比較的明るいライン状の横縞が目視されるのを極力低減させることにある。

【0079】

図34は、いわゆるドット反転駆動を行ない、かつ表示信号にブランкиング信号Bを含ませる場合に該ブランкиング信号Bを各フレーム毎に同じタイミングで挿入させる場合の不都合を示した図である。

【0080】

まず、図34 (a) は、表示信号が、1フレームにおいてブランкиング信号Bの次にmラインの映像データ、(m+1)ラインの映像データ、(m+2)ラインの映像データ、(m+3)ラインの映像データ、そして次のブランкиング信号B、(m+4)ラインの映像データ……というように時間経過にともない出力されることを示している。そして、図示していないが、2フレーム以降においても、同様で、各部ランкиング信号Bは時間軸と垂直方向に並列されるようになっている。換言すれば、各フレームの切り替えにおいて、前記ブランкиング信号Bはフレーム毎に同じ時間的タイミングで出力させるようにしている。

【0081】

この場合において、各映像データは各ライン毎、およびライン上の各画素毎に極性が変わらるようになっている。たとえば、図34においてmラインの映像データの極性が-と記されているが、この-の極性はmライン上の最初の画素の極性を示したものである。

【0082】

また、この場合、各ブランкиング信号Bの極性は該ブランкиング信号Bの次に输出される映像データの極性に対して逆の極性としている。

【0083】

また、図34 (b) は、図34 (a) に示した表示信号を液晶表示パネルに供給した場合の該液晶表示パネルの各画素に印加される電圧の極性を平面的に示した図となっている。

【0084】

図34 (a) に示すmラインの映像データ、(m+1)ラインの映像データ、(m+2)ラインの映像データ、(m+3)ラインの映像データは、それぞれ、図34 (b) のmライン(行目)、(m+1)ライン(行目)、(m+2)ライン(行目)、(m+3)ライン(行目)に書き込まれる。この場合、mライン(行目)の各画素には、図34 (a) のmラインの映像データの部分に示した-の極性を先頭に図中右側へ順次+、-、+、-、……というように極性が定められる。同様に、(m+1)ライン(行目)の各画素には、図34 (a) の(m+1)ラインの映像データの部分に示した+の極性を先頭に図中右側へ順次-、+、-、+、……とい

うように極性が定められる。

【0085】

そして、前記各映像データの次に出力されるブランкиング信号Bは、図34(b)の($m+\alpha$)ライン(行目)、($m+\alpha+1$)ライン(行目)、($m+\alpha+2$)ライン(行目)、($m+\alpha+3$)ライン(行目)に同時に書き込まれる。

【0086】

この図34(b)から明らかになるように、ブランкиング信号Bが供給される各画素の極性(たとえば図中 $m+\alpha$ ないし $m+\alpha+3$ 行の各画素の極性)は、該ブランкиング信号Bの出力後に1ライン目の表示信号が供給される各画素(たとえば図中 $m+4$ 行の各画素の極性)に対して映像線の方向(走査線と直交する方向)で互いに異ならしめるようになっている。

【0087】

このようにした場合の液晶表示パネルの表示面には、図34(c)に示すように、ブランкиング信号Bの供給の後のライン、たとえば m ライン(行目)、($m+4$)ライン(行目)に、その背景よりも比較的明るいライン状の横縞が表示されることになる。そして、この横縞の表示はその後のフレームにおいても位置的に変化しないことから目視されることになる。このことから、この第3の実施例では、図10から図33の各態様で示される如く、順次出力されるN回分の表示信号に含まれるブランкиング信号Bは時間軸と直交する方向に並列されることなく出力タイミングを異なる時間でずらようとしている。図35は、順次出力されるN回分の表示信号に含まれるブランкиング信号Bを時間軸と直交する方向に並列されることなく出力タイミングをずらした場合の各フレームにおける前記ライン状の横縞の位置を示した図である。

【0088】

図35は、nフレーム目の表示において前記ライン状の横縞が m ラインに表示され、(n+1)フレーム目の表示において前記ライン状の横縞が($m+2$)ラインに表示され、(n+2)フレーム目の表示において前記ライン状の横縞が($m+1$)ラインに表示され、(n+3)フレーム目の表示において前記ライン状の横縞が($m+3$)ラインに表示されていることを示している。このようにした場合、前記ラ

イン状の横縞はフレームの切り替わりにおいて同じライン上に停滞することなく、他のラインに移動することから、目視されにくく、目立たないものとして表示されることになる。

【0089】

次に、このような駆動において、各ブランкиング信号Bの極性を該ブランкиング信号Bの次に出力される映像データの極性に対して逆の極性としている理由について説明する。

【0090】

図36 (a)、(b) は、各ブランкиング信号Bの極性を該ブランкиング信号Bの次に出力される映像データの極性に対して逆の極性とした場合のnフレーム目と次の(n+1)フレーム目における各映像データとブランкиング信号Bの波形図を示したものである。図36 (a) に示すブランкиング信号Bはその極性が+となっており、図36 (b) に示すブランкиング信号Bはその極性が-となっている。

【0091】

該波形図は、対向電極CTに印加される対向電圧（基準電圧、コモン電圧）に対する画素電極PXに印加される電圧に対応するものであり、画素に印加する電圧が+の極性の場合には基準電圧に対して画素電極PXに印加される電圧は正極となり、-の極性の場合には基準電圧に対して画素電極PXに印加される電圧は負極となる。

【0092】

そして、図36 (a) の場合、ブランкиング信号Bの次に出力される映像データの極性は-となっており、この-は該ブランкиング信号Bの極性+から変化するものであるが、該ブランкиング信号Bの前に出力された映像データの極性が+となっていることから、+の極性をもつブランкиング信号Bの前記基準電圧に移行する間、および該基準電圧に対する-の極性をもつ前記映像データの電圧に移行する間の波形変化が急峻とならず、該ブランкиング信号Bの次に出力される映像データの白表示される積分値は比較的大きいものとして表示されるようになる。このことは、図36 (a) において、+の極性をもつ映像データから-の極性

をもつ映像データへ移行する際の電圧（絶対値）よりも、+の極性をもつブランкиング信号Bから-の極性をもつ映像データへ移行する際の電圧（絶対値）の方が大きくなり、その差分を図中電位差として示している。

【0093】

同様に、図36（b）の場合、ブランкиング信号Bの次に出力される映像データの極性は+となっており、この+は該ブランкиング信号Bの極性-から変化するものであるが、該ブランкиング信号Bの前に出力された映像データの極性が-となっていることから、-の極性をもつブランкиング信号Bの前記基準電圧に移行する間、および該基準電圧に対する+の極性をもつ前記映像データの電圧に移行する間の波形変化が急峻とならず、該ブランкиング信号Bの次に出力される映像データの白表示される積分値は比較的大きいものとして表示されるようになる。このことは、図36（b）において、-の極性をもつ映像データから+の極性をもつ映像データへ移行する際の電圧（絶対値）よりも、-の極性をもつブランкиング信号Bから+の極性をもつ映像データへ移行する際の電圧（絶対値）の方が大きくなり、その差分を図中電位差として示している。

【0094】

しかし、上述した電位差の大きさは、各ブランкиング信号Bの極性を該ブランкиング信号Bの次に出力される映像データの極性に対して逆の極性としていることを理由して最小とすることができるようになっている。

【0095】

すなわち、図37（a）、（b）は、それぞれ前記図36（a）、（b）に対応する図で、各ブランкиング信号Bの極性を該ブランкиング信号Bの次に出力される映像データの極性に対して同じ極性としているものである。

【0096】

この場合、図37（a）に示すように、ブランкиング信号Bの次に出力される映像データの極性は-となっており、この-は該ブランкиング信号Bの極性-から変化するものであるが、該ブランкиング信号Bの前に出力された映像データの極性が+となっていることから、-の極性をもつブランкиング信号Bの前記基準電圧に移行する間、および該基準電圧に対する-の極性をもつ前記映像データの

電圧に移行する間の波形変化が一旦マイナスにまで至りさらに該ブランкиング信号Bの次に出力される映像データによってマイナス極性の絶対値を大きくしていくことになる。このため、白表示される積分値はより大きいものとして表示されるようになる。このことは、図37(a)において、+の極性をもつ映像データから-の極性をもつ映像データへ移行する際の電圧(絶対値)よりも、-の極性をもつブランкиング信号Bから+の極性をもつ映像データへ移行する際の電圧(絶対値)の方が大きくなり、その差分を図中電位差として示している。この場合の電位差は図36(a)に示した電位差よりも大きな値をとる。

【0097】

同様に、図37(b)の場合、ブランкиング信号Bの次に出力される映像データの極性は+となっており、この+は該ブランкиング信号Bの極性+から変化するものであるが、該ブランкиング信号Bの前に出力された映像データの極性が+となっていることから、-の極性をもつブランкиング信号Bの前記基準電圧に移行する間、および該基準電圧に対して+の極性をもつ前記映像データの電圧に移行する間の波形変化が一旦プラスにまで至りさらに該ブランкиング信号Bの次に出力される映像データによってプラス極性の絶対値を大きくしていくことになる。このため、白表示される積分値は比較的大きいものとして表示されるようになる。

このことは、図37(b)において、+の極性をもつ映像データから-の極性をもつ映像データへ移行する際の電圧(絶対値)よりも、+の極性をもつブランкиング信号Bから+の極性をもつ映像データへ移行する際の電圧(絶対値)の方が大きくなり、その差分を図中電位差として示している。この場合の電位差は図36(b)に示した電位差よりも大きな値をとる。

【0098】

図38(a)、(b)、(c)、(d)は、それぞれ図12の場合の駆動態様を一例として、そのnフレーム目、(n+1)フレーム目、(n+2)フレーム目、(n+3)フレーム目における映像データとブランкиング信号Bの波形図を示したものである。

【0099】

各図から明らかになるように、図38(a)は図36(a)の場合に相当し、図38(b)は図36(b)の場合に相当し、図38(c)は図36(b)の場合に相当し、図38(d)は図36(a)の場合に相当する。

【0100】

したがって、ブランкиング信号Bの次に供給される一ライン分の映像データは他のラインの映像データよりも輝度が高いが、その程度を最小限に抑えることができる。

【0101】

また、ブランкиング信号Bの次に供給される一ライン分の映像データは、該ブランкиング信号Bと同様に各フレームの切り替わりにおいて同じライン上に停滞することなく、他のラインに移動することから、目視されにくく、目立たないものとして表示されることになる

第3の実施例において示した実施例は、第1の実施例に示した変形例にもそのまま適用できるもので、たとえば、第1工程における表示信号の出力回数：Mは4に限られず、第2工程におけるブランкиング信号の出力回数：Mは1に限られない。

【0102】

【発明の効果】

以上説明したことから明らかなように、本発明による液晶表示装置およびその駆動方法によれば、画面上に表示される横縞の発生を防止することができる。

【図面の簡単な説明】

【図1】

本発明による液晶表示装置の駆動方法の第1実施例として説明される表示信号の出力タイミングとこれに呼応する走査線の駆動波形を示す図。

【図2】

本発明による液晶表示装置の駆動方法の第1実施例として説明される表示制御回路（タイミング・コントローラ）への映像データの入力波形（入力データ）とこれからの出力波形（ドライバ・データ）とのタイミングを示す図。

【図3】

本発明による液晶表示装置の概要を示す構成図。

【図4】

本発明による液晶表示装置の駆動方法の第1実施例として説明される表示信号の出力期間に走査線の4ラインを同時に選択する駆動波形を示す図。

【図5】

本発明による液晶表示装置に備えられた複数個（例えば、4個）のライン・メモリの夫々への映像データの書き込み（Write）とこれからの読み出し（Read Out）との夫々のタイミングを示す図。

【図6】

本発明による液晶表示装置の駆動方法の第1実施例におけるフレーム期間毎（連続する3つのフレーム期間の各々）の画素表示タイミングを示す図。

【図7】

本発明による液晶表示装置を図6に示す画素表示タイミングに則り駆動したときの、表示信号への輝度応答（画素に対応する液晶層の光透過率変動）を示す図

【図8】

本発明による液晶表示装置の駆動方法の第2実施例として説明されるゲート線G1、G2、G3、……に対応する画素行の夫々へ供給される表示信号（映像データによるm、m+1、m+2、……とブランкиング・データによるB）の連続する複数のフレーム期間m、m+1、m+2、……に亘る変化を示す図。

【図9】

アクティブ・マトリクス型の表示装置に備えられる画素アレイの一例の概略図

【図10】

本発明による液晶表示装置の駆動方法の第3実施例として説明される図でドット反転駆動におけるゲート線G1、G2、G3、……に対応する画素行の夫々へ供給される表示信号（映像データによるm、m+1、m+2、……とブランкиング・データによるB）の連続する複数のフレーム期間m、m+1、m+2、……に亘る変化を示す図。

【図11】

図10に示す駆動方法の他の態様を示す図で、図10に対応した図。

【図12】

図10に示す駆動方法の他の態様を示す図で、図10に対応した図。

【図13】

図10に示す駆動方法の他の態様を示す図で、図10に対応した図。

【図14】

図10に示す駆動方法の他の態様を示す図で、図10に対応した図。

【図15】

図10に示す駆動方法の他の態様を示す図で、図10に対応した図。

【図16】

図10に示す駆動方法の他の態様を示す図で、図10に対応した図。

【図17】

図10に示す駆動方法の他の態様を示す図で、図10に対応した図。

【図18】

図10に示す駆動方法の他の態様を示す図で、図10に対応した図。

【図19】

図10に示す駆動方法の他の態様を示す図で、図10に対応した図。

【図20】

図10に示す駆動方法の他の態様を示す図で、図10に対応した図。

【図21】

図10に示す駆動方法の他の態様を示す図で、図10に対応した図。

【図22】

図10に示す駆動方法の他の態様を示す図で、図10に対応した図。

【図23】

図10に示す駆動方法の他の態様を示す図で、図10に対応した図。

【図24】

図10に示す駆動方法の他の態様を示す図で、図10に対応した図。

【図25】

図10に示す駆動方法の他の態様を示す図で、図10に対応した図。

【図26】

図10に示す駆動方法の他の態様を示す図で、図10に対応した図。

【図27】

図10に示す駆動方法の他の態様を示す図で、図10に対応した図。

【図28】

図10に示す駆動方法の他の態様を示す図で、図10に対応した図。

【図29】

図10に示す駆動方法の他の態様を示す図で、図10に対応した図。

【図30】

図10に示す駆動方法の他の態様を示す図で、図10に対応した図。

【図31】

図10に示す駆動方法の他の態様を示す図で、図10に対応した図。

【図32】

図10に示す駆動方法の他の態様を示す図で、図10に対応した図。

【図33】

図10に示す駆動方法の他の態様を示す図で、図10に対応した図。

【図34】

第3実施例に対してブランкиング信号をフレームの切り替え毎に時間的ずれを生じさせることなく出力させた場合の不都合を示す説明図。

【図35】

第3実施例の表示信号（映像データによるm、m+1、m+2、……とブランкиング・データによるB）の各フレームの画素の書き込み状態を示す図。

【図36】

各ブランкиング信号Bの極性を該ブランкиング信号Bの次に出力される映像データの極性に対して逆の極性としている場合の映像データの波形を示す図。

【図37】

各ブランкиング信号Bの極性を該ブランкиング信号Bの次に出力される映像データの極性に対して同じ極性としている場合の映像データの波形を示す図。

【図38】

図12の駆動における映像データとブランкиング・データの波形を示す図。

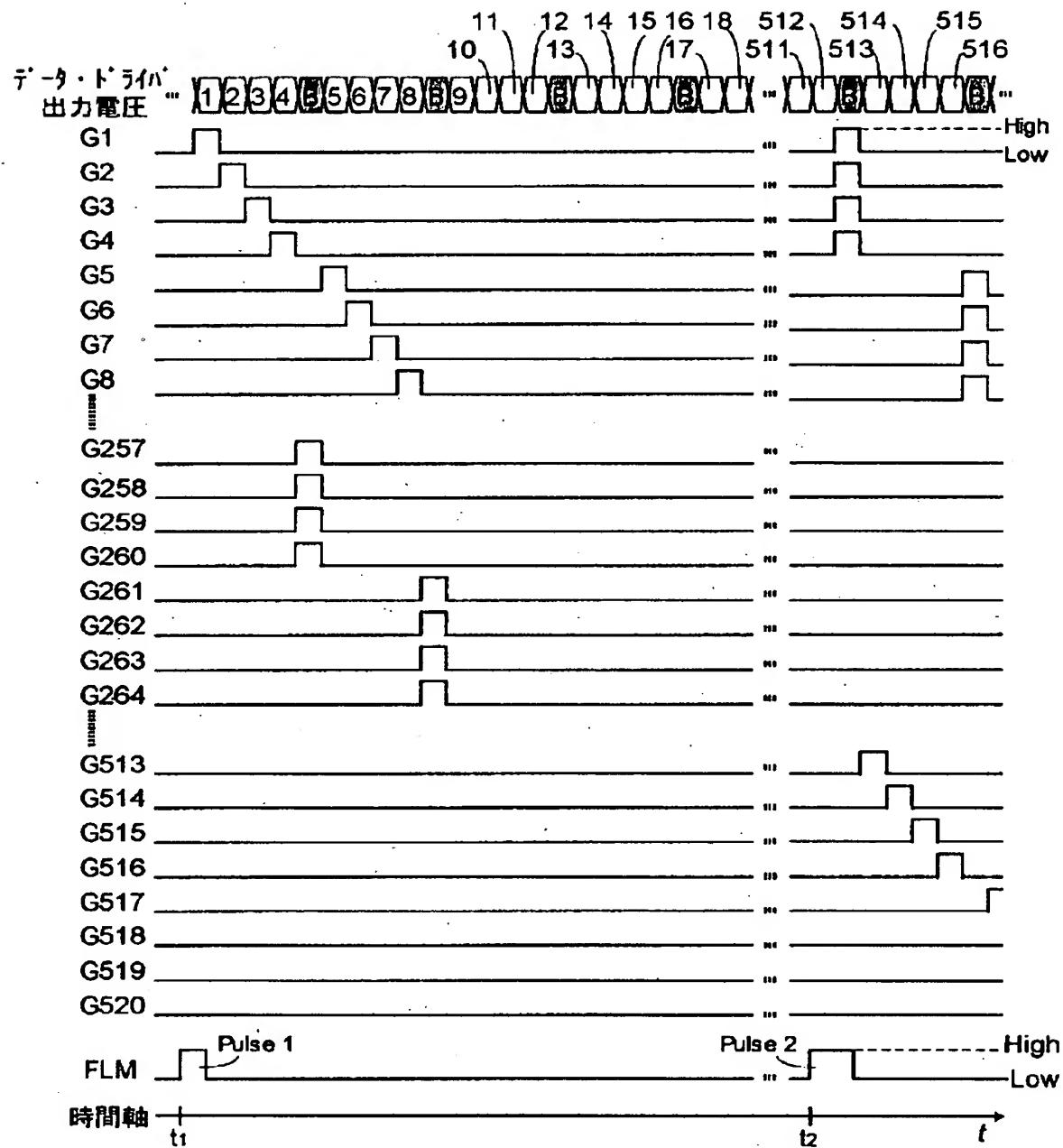
【符号の説明】

100……表示装置（液晶表示装置）、101……画素アレイ（TFT型液晶表示パネル）、102……データ・ドライバ、103……走査ドライバ、104……表示制御回路（タイミング・コントローラ）、105……ライン・メモリ回路、120……映像データ、121……映像制御信号群（垂直同期信号、水平同期信号、ドット・クロック等）、106……ドライバ・データ、107……データ・ドライバ制御信号群、CL3……走査ラインクロック。

【書類名】 図面

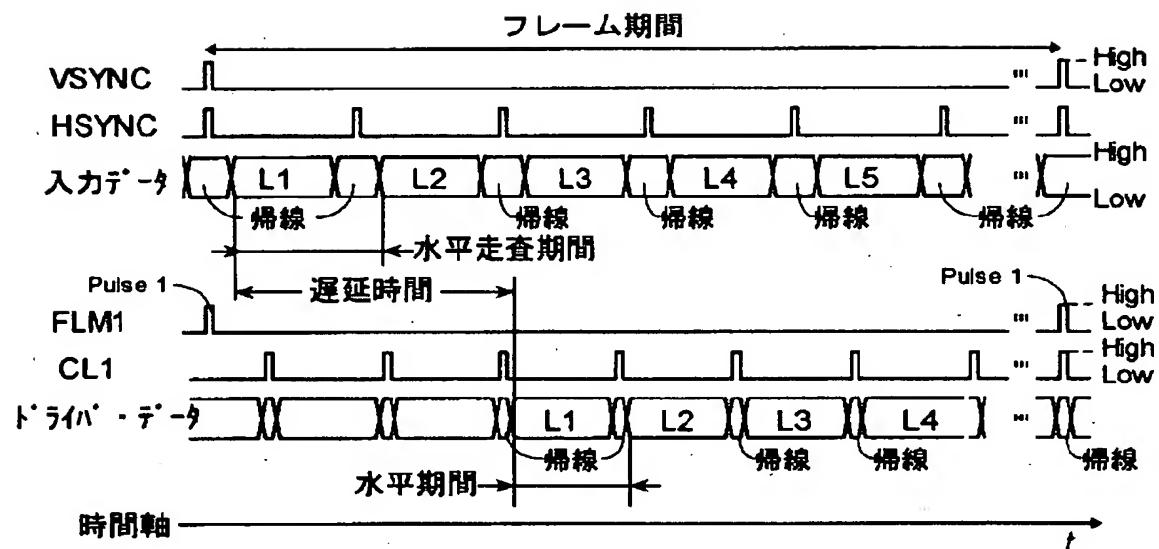
【図1】

図1



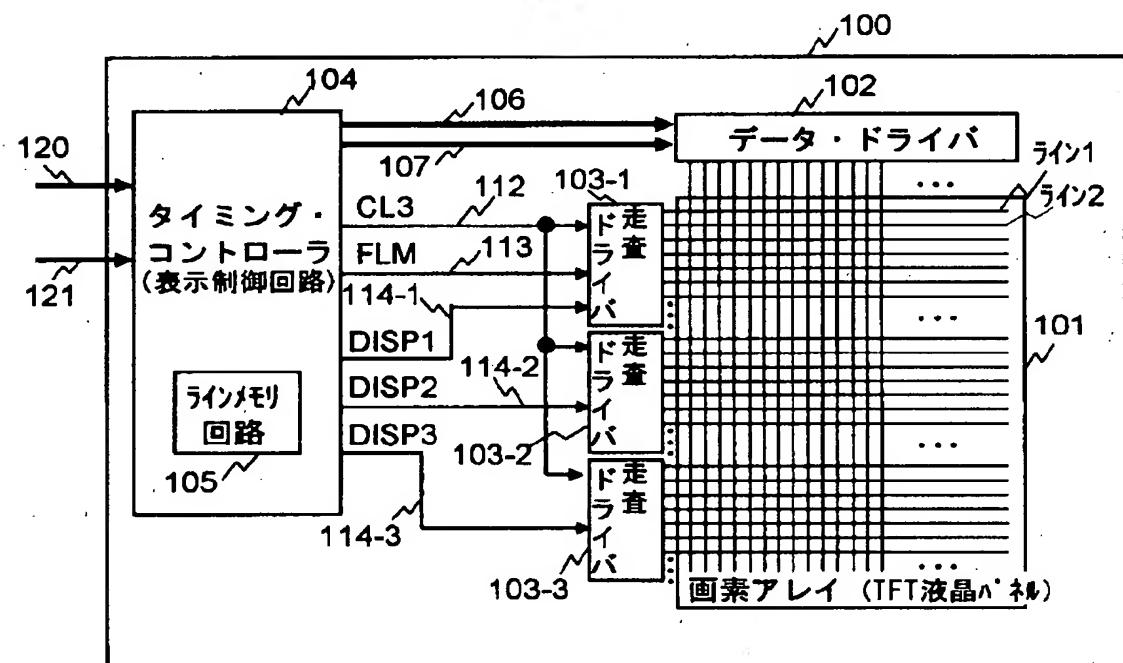
【図2】

図2



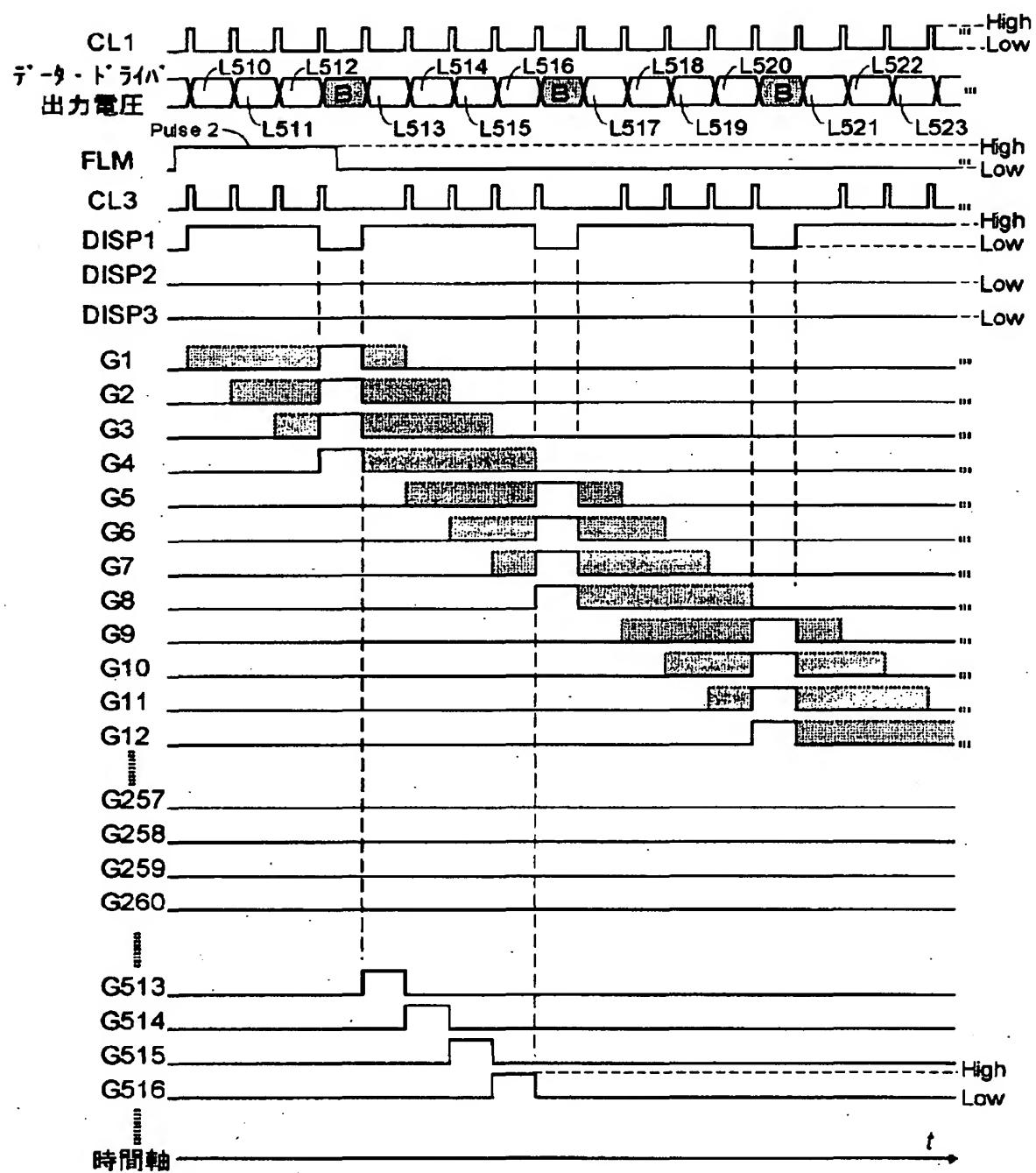
【図3】

図3

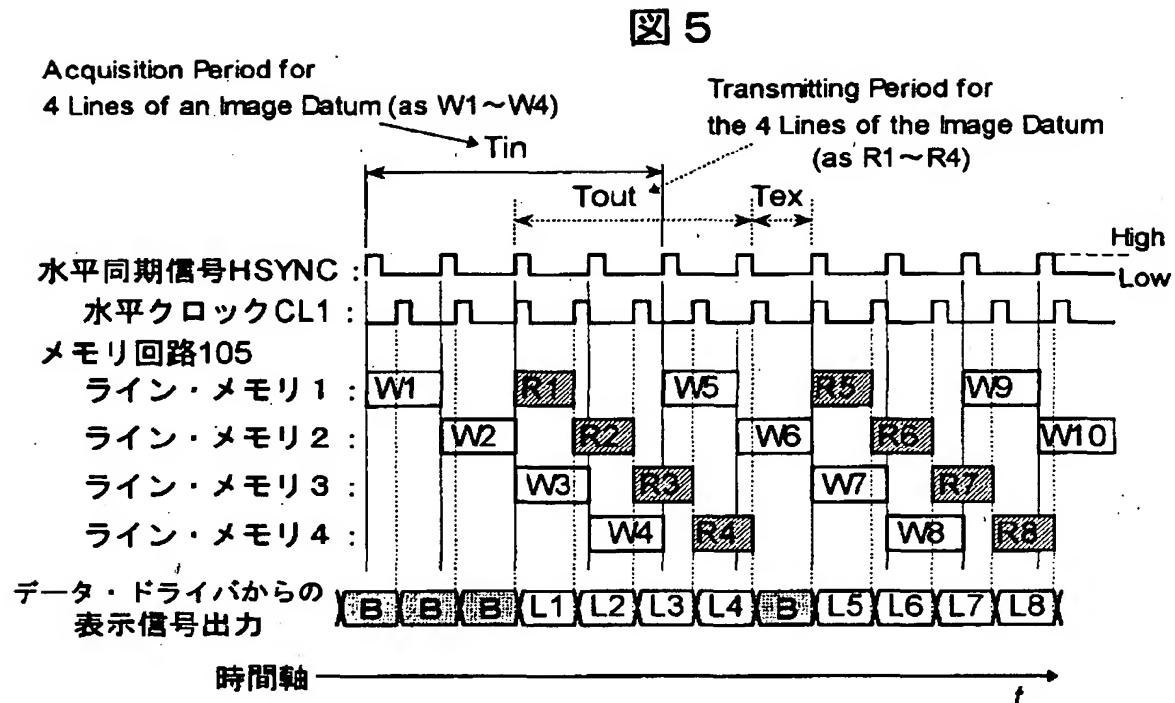


【図4】

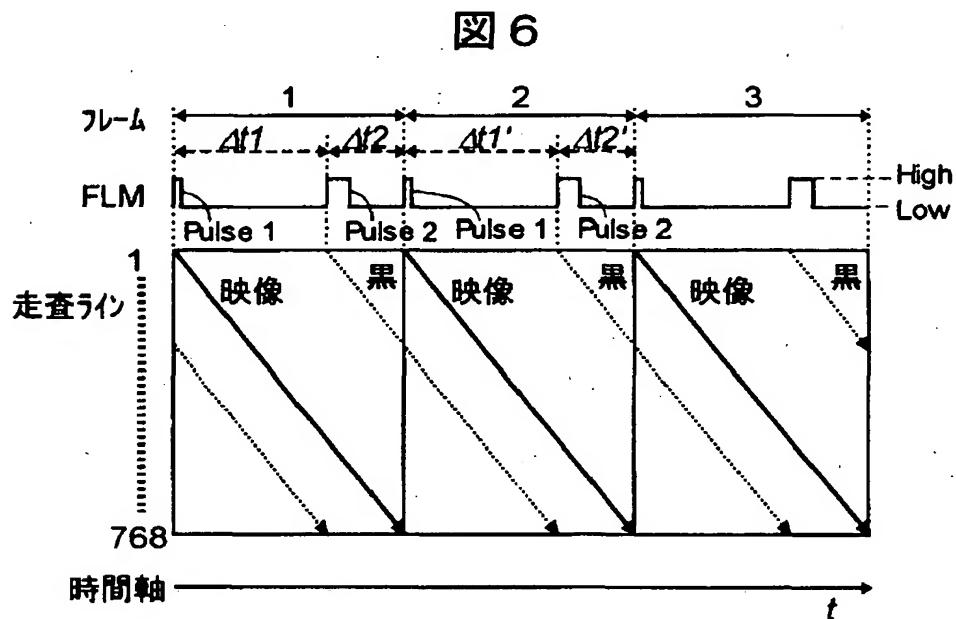
図4



【図5】

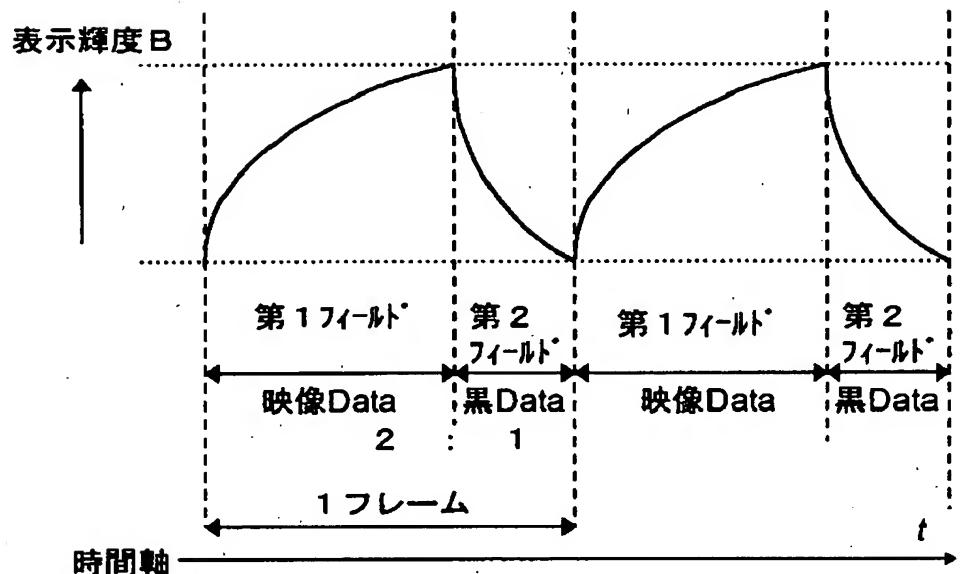


【図6】



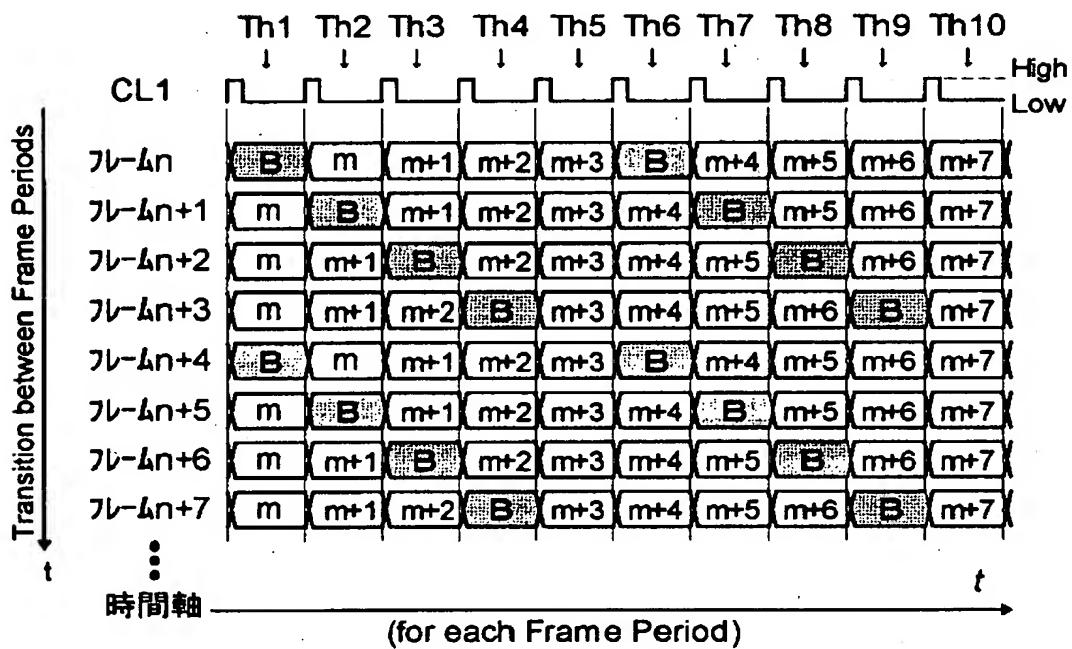
【図7】

図7



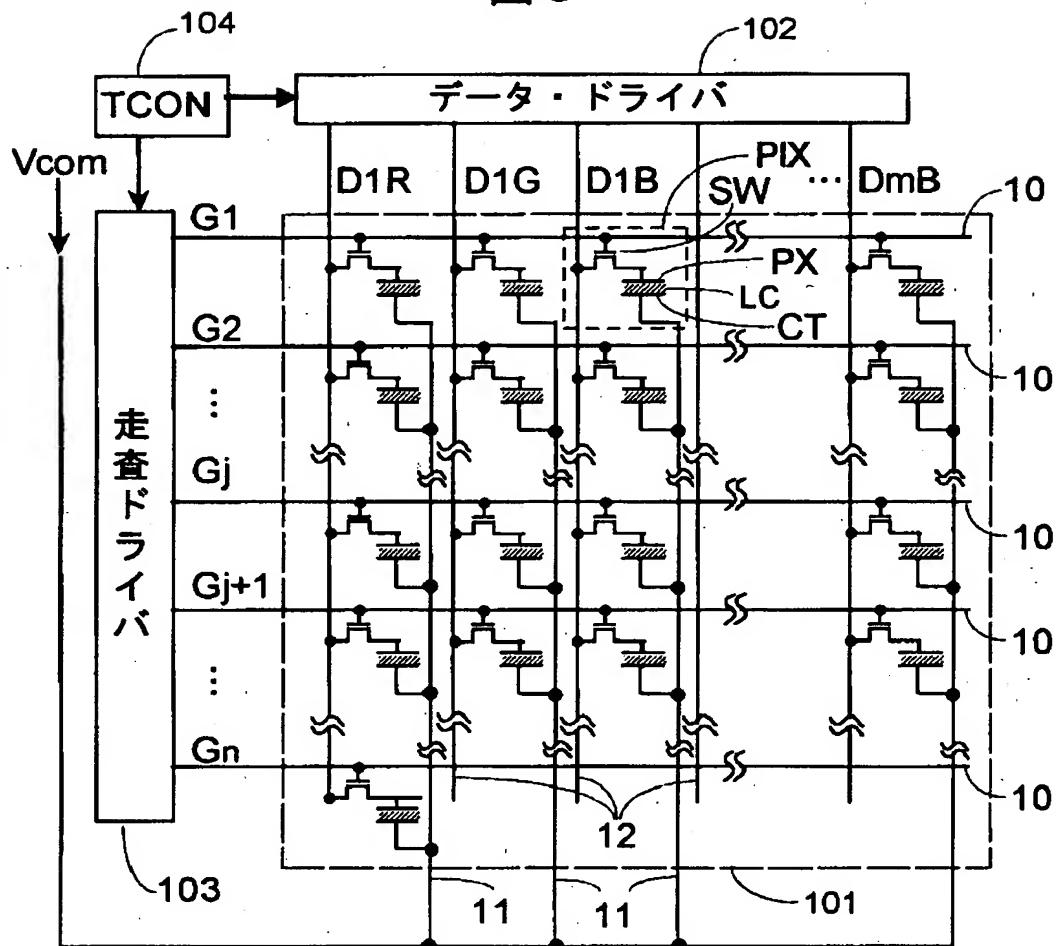
【図8】

図8



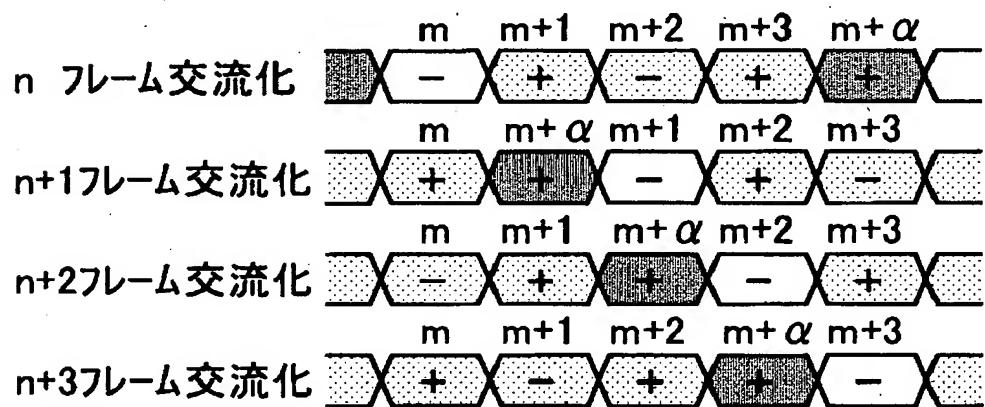
【図9】

図9



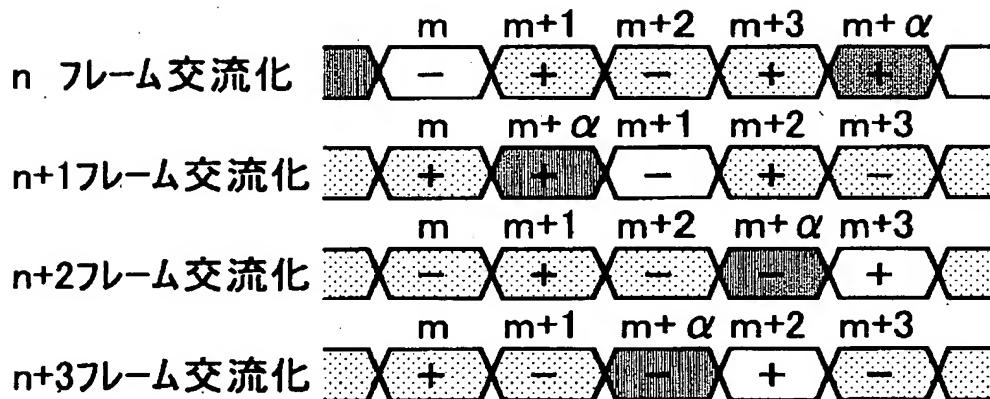
【図10】

図10



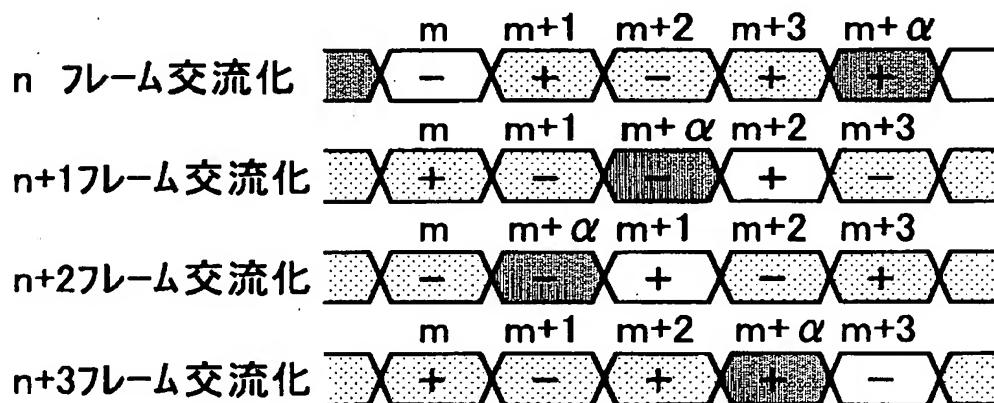
【図11】

図11



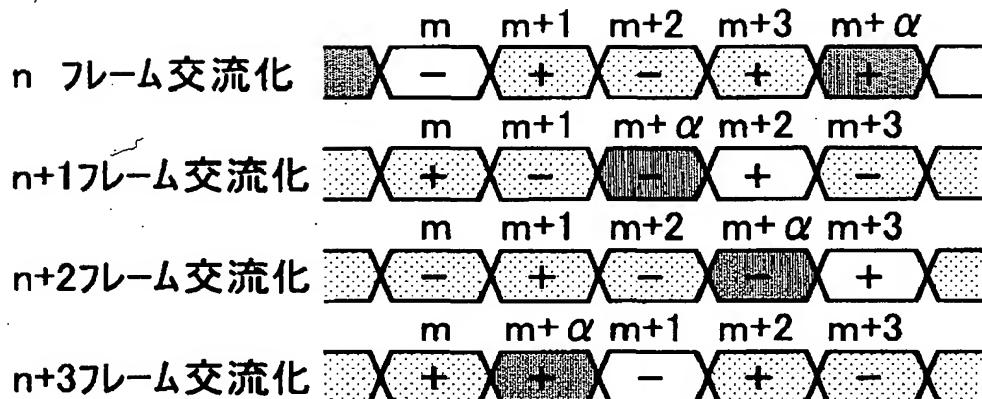
【図12】

図12



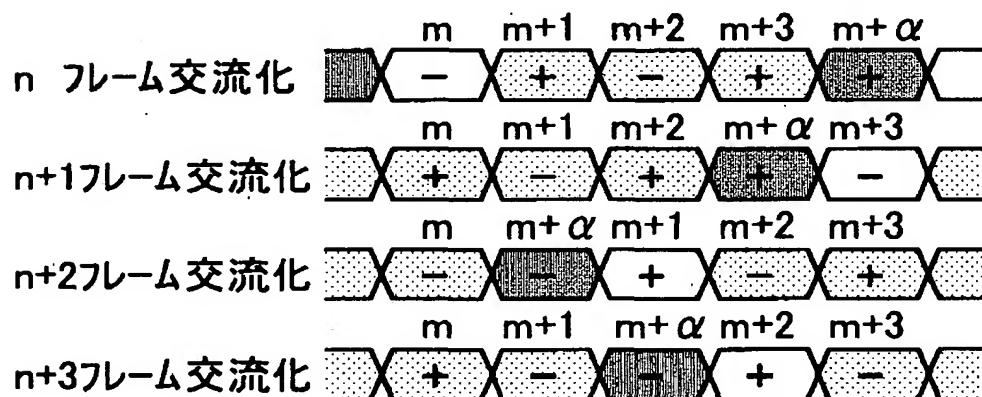
【図13】

図13



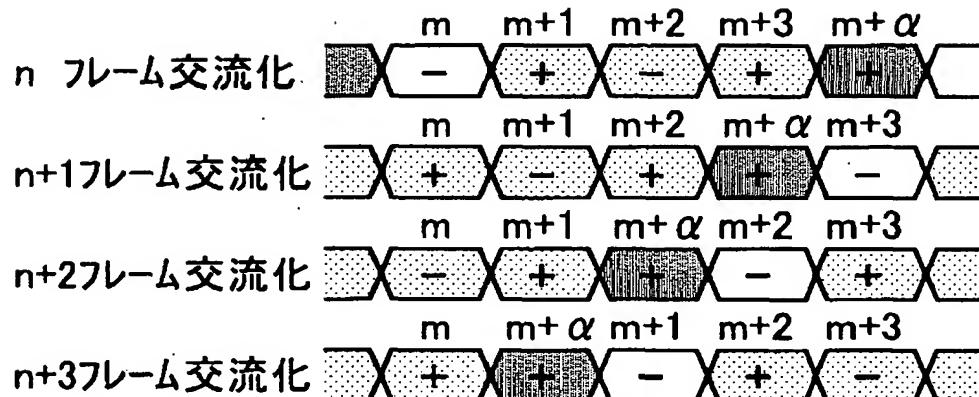
【図14】

図14



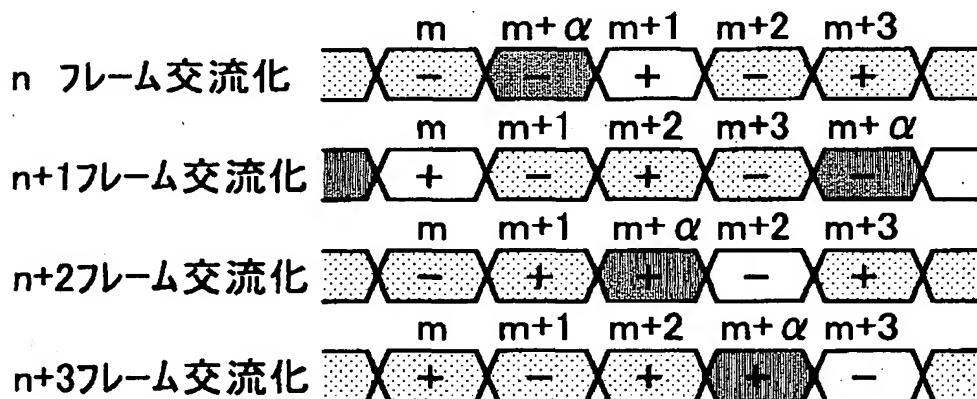
【図15】

図15



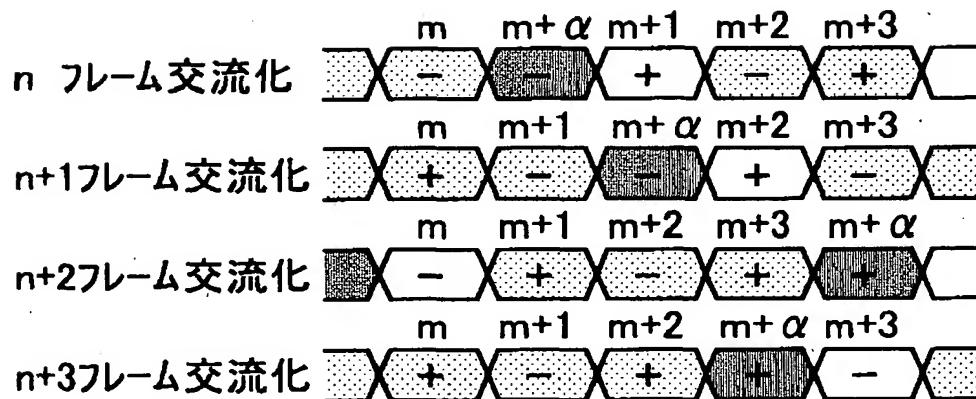
【図16】

図16



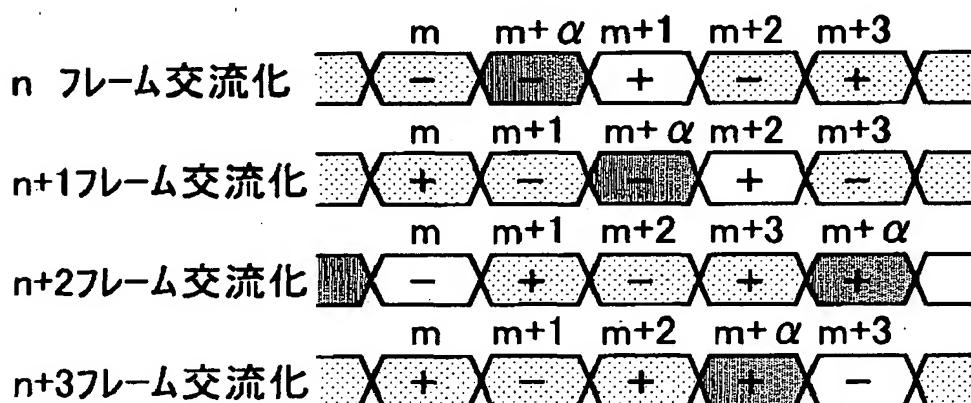
【図17】

図17



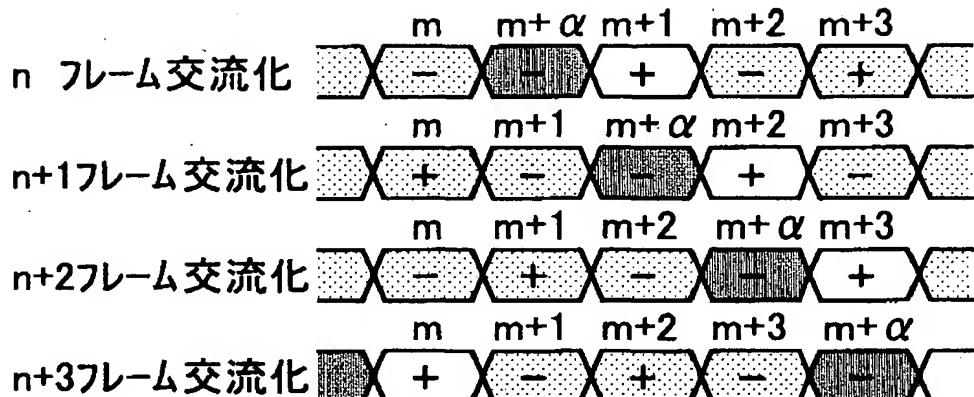
【図18】

図18



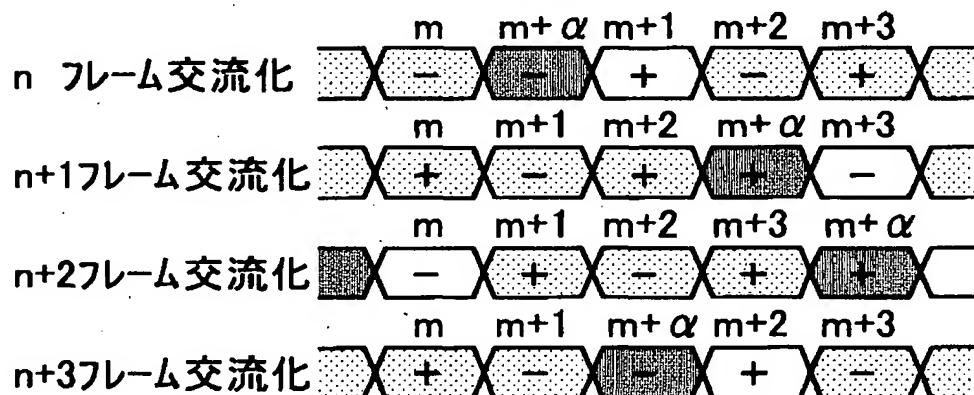
【図19】

図19



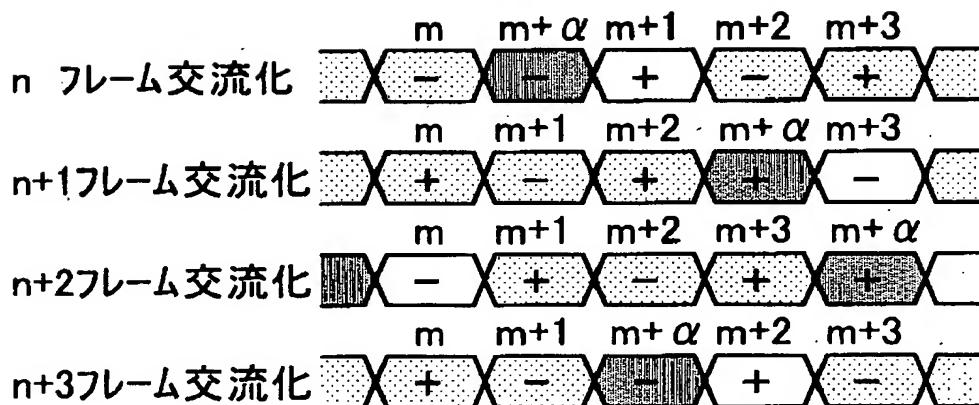
【図20】

図20



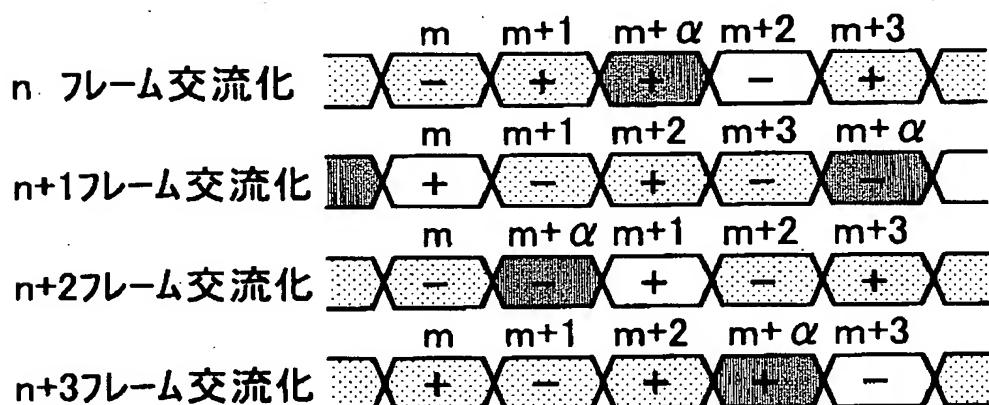
【図21】

図21



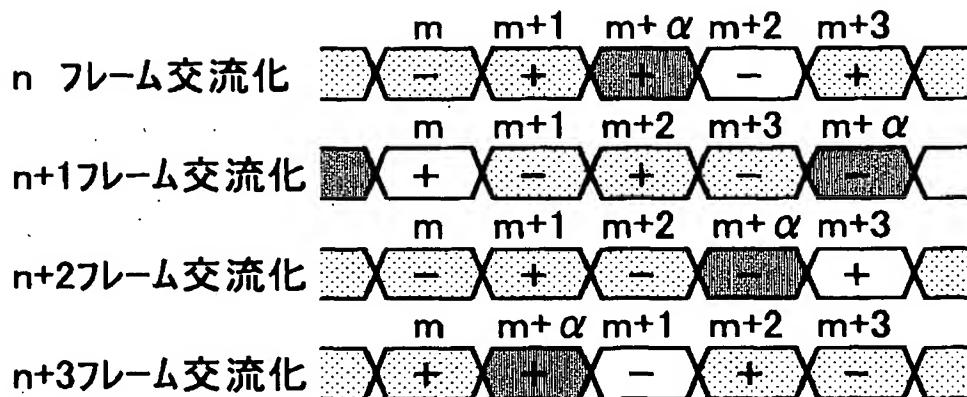
【図22】

図22



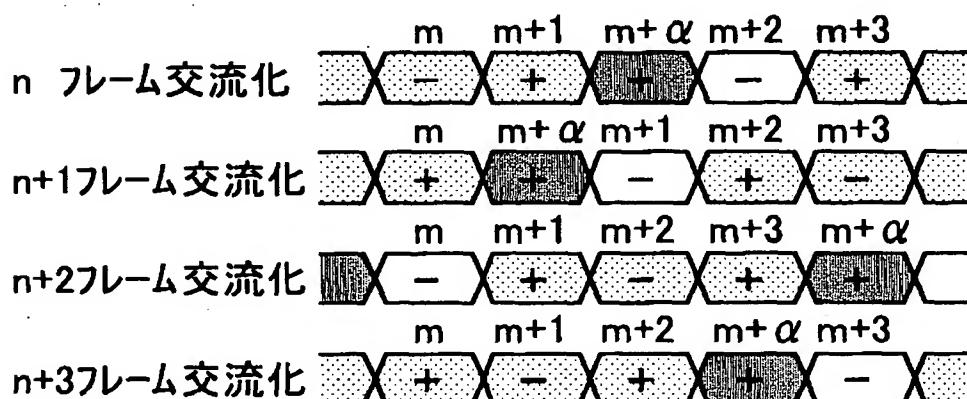
【図23】

図23



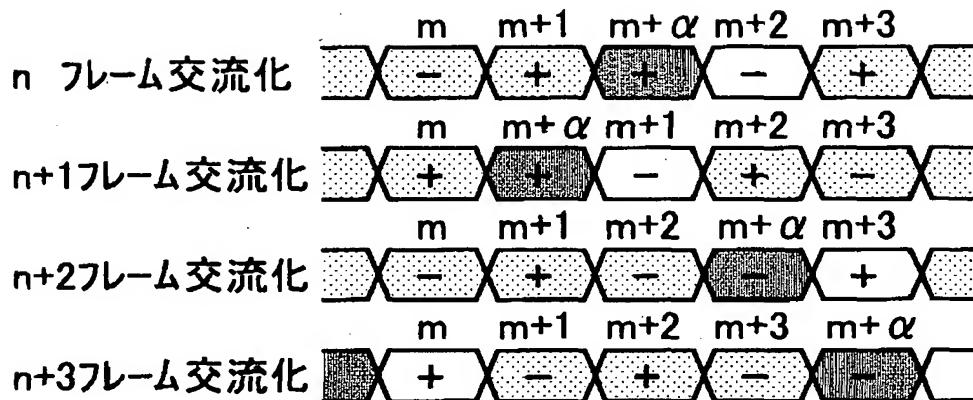
【図24】

図24



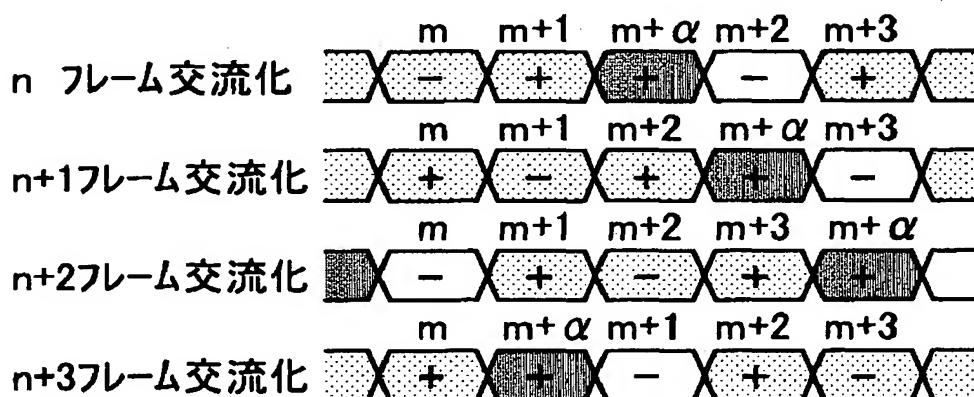
【図25】

図25



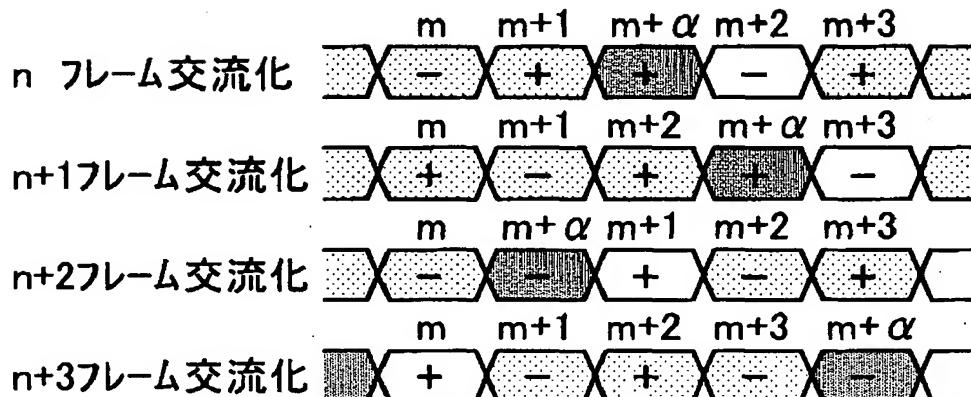
【図26】

図26



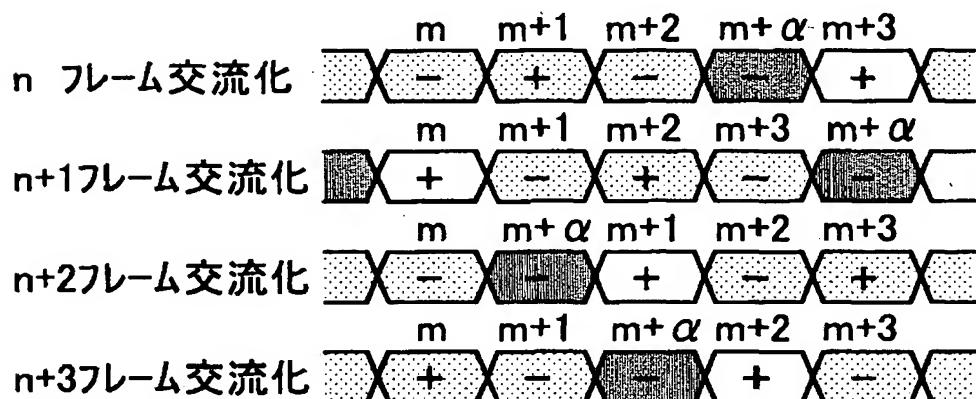
【図27】

図27



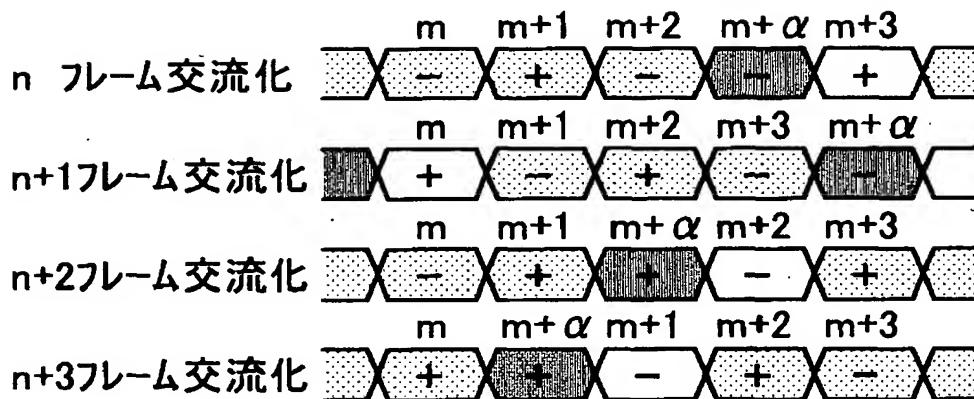
【図28】

図28



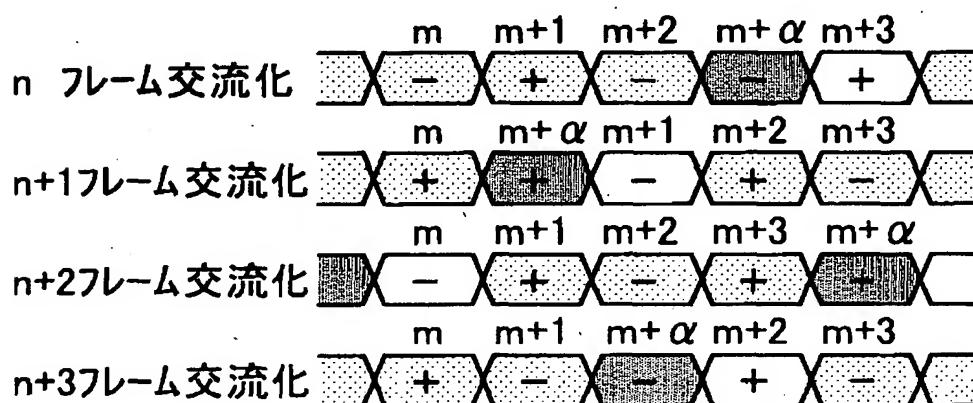
【図29】

図29



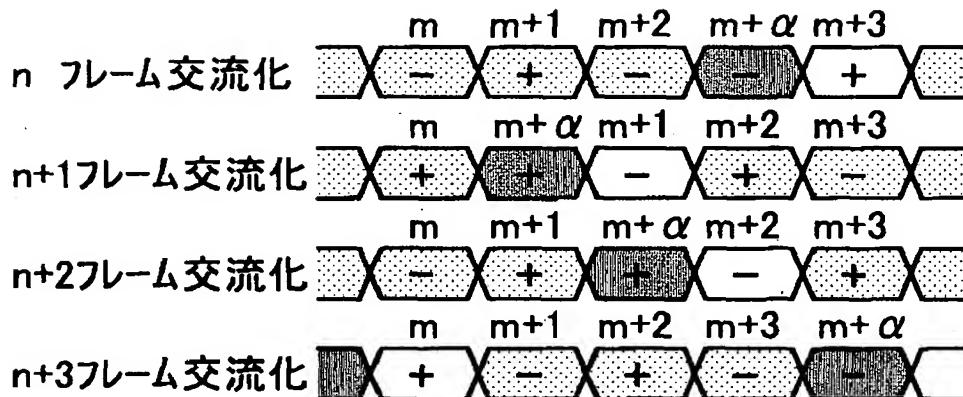
【図30】

図30



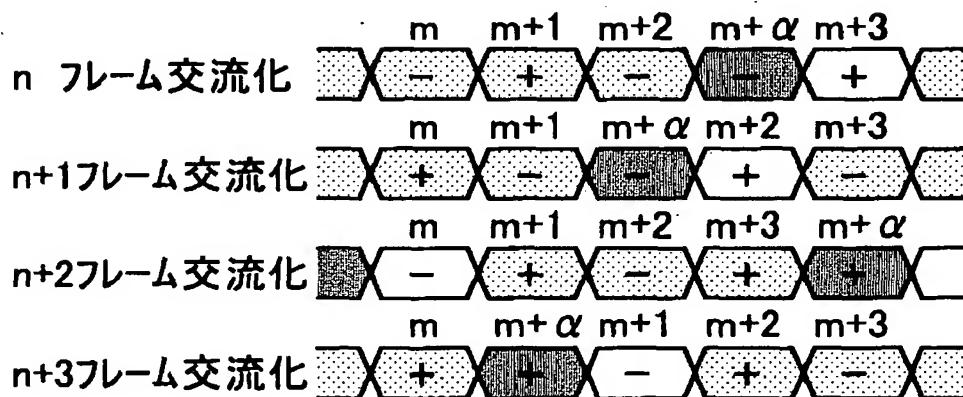
【図3.1】

図31



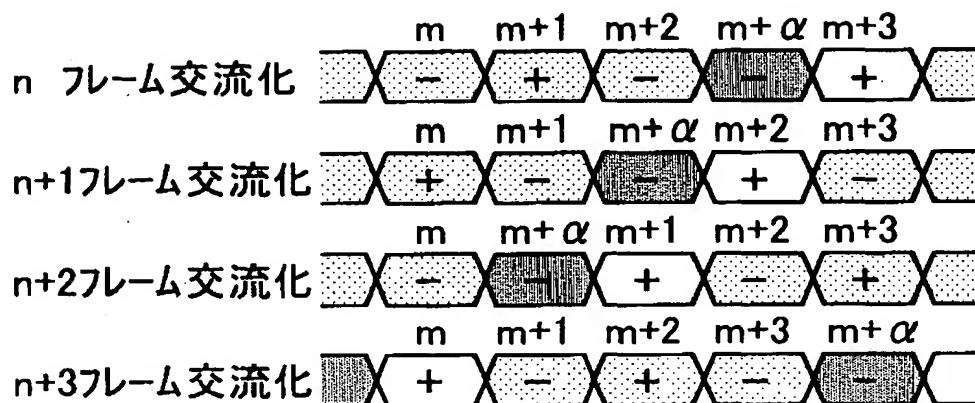
【図3.2】

図32



【図33】

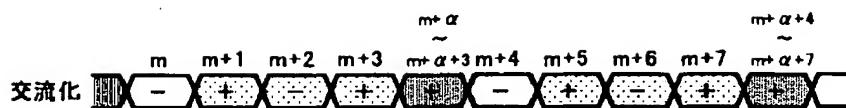
図33



【図34】

図34

(a)



(b)

m	-	+	-	+	-	+	-	+	...
$m+1$	+	-	+	-	+	-	+	-	...
$m+2$	-	+	-	+	-	+	-	+	...
$m+3$	+	-	+	-	+	-	+	-	...
$m+4$	-	+	-	+	-	+	-	+	...
$m+5$	+	-	+	-	+	-	+	-	...
$m+6$	-	+	-	+	-	+	-	+	...
$m+7$	+	-	+	-	+	-	+	-	...

$m+\alpha$...
$m+\alpha+1$...
$m+\alpha+2$...
$m+\alpha+3$...
$m+\alpha+4$...
$m+\alpha+5$...
$m+\alpha+6$...
$m+\alpha+7$...

(c)

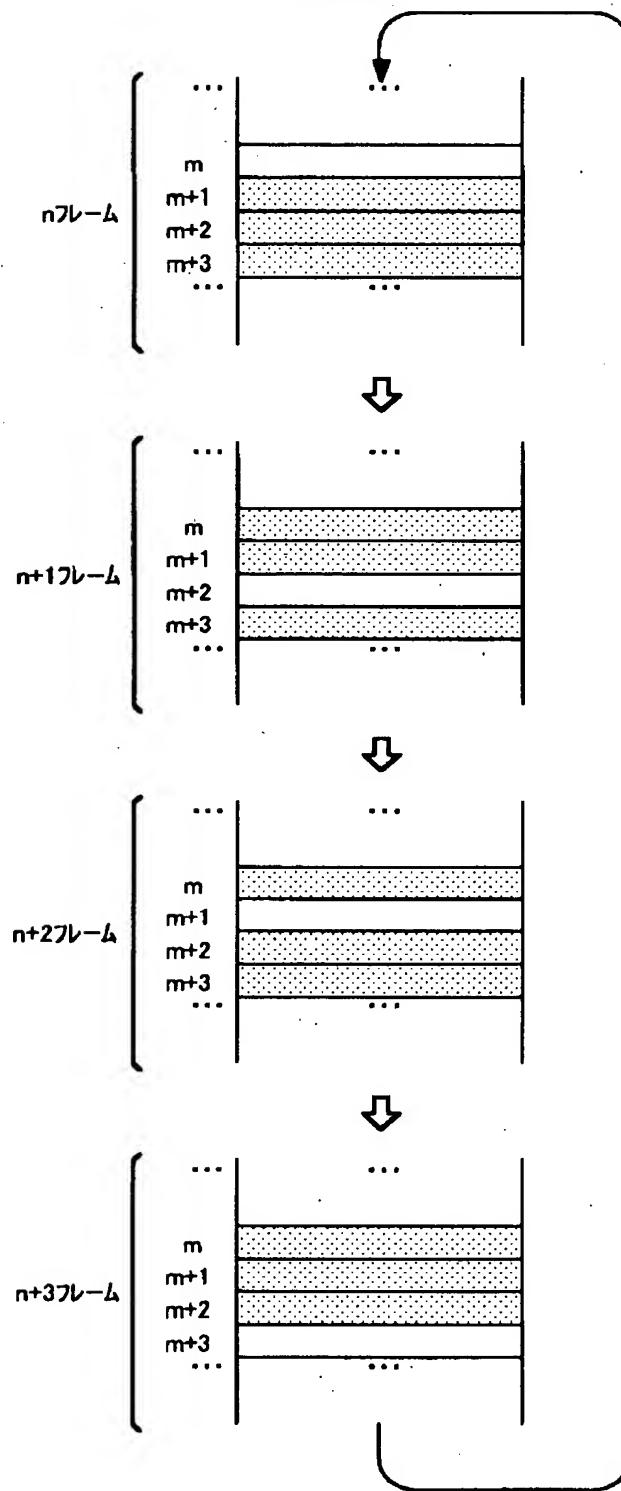
...
$m-3$
$m-2$
$m-1$
m
$m+1$
$m+2$
$m+3$
$m+4$
$m+5$
$m+6$
$m+7$

暗い

明るい

【図35】

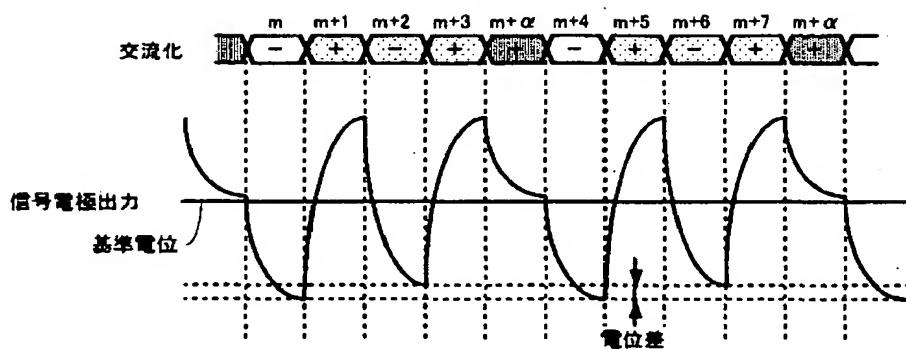
図35



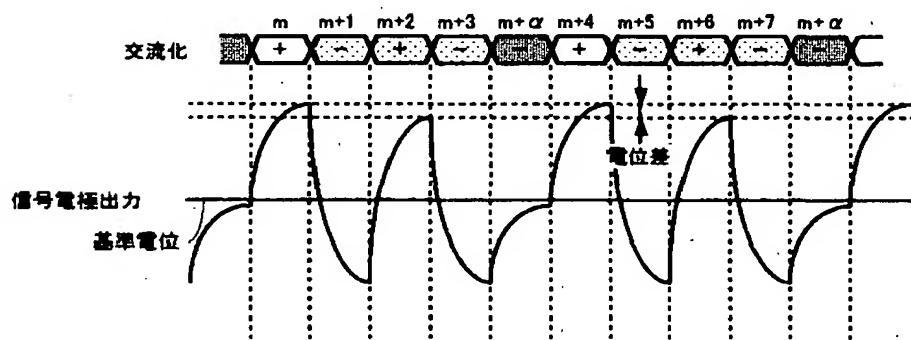
【図36】

図36

(a)



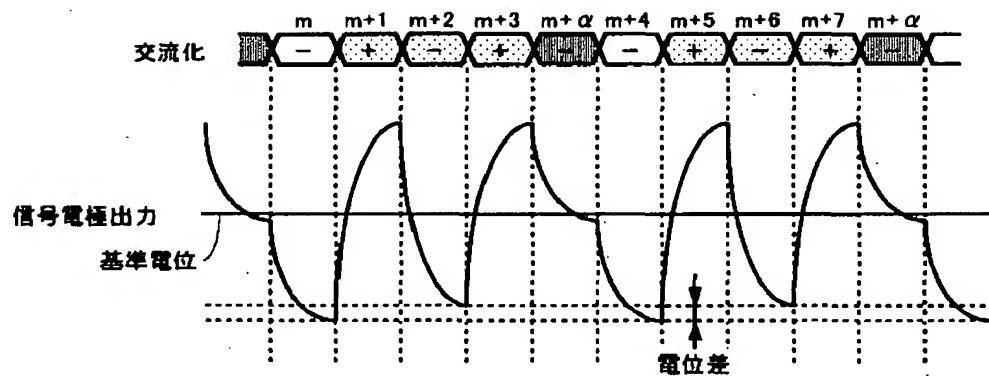
(b)



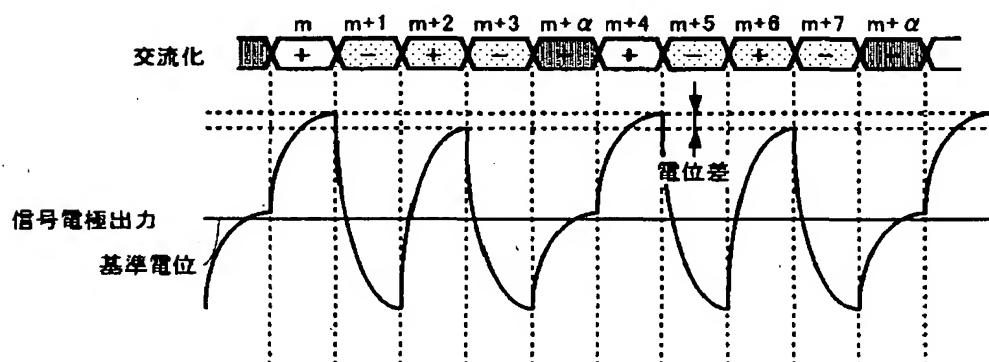
【図37】

図37

(a)



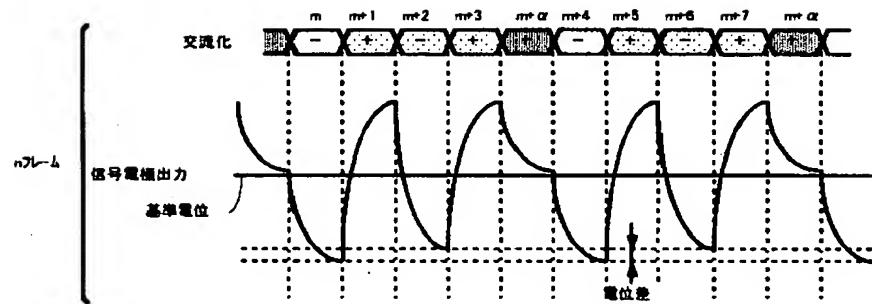
(b)



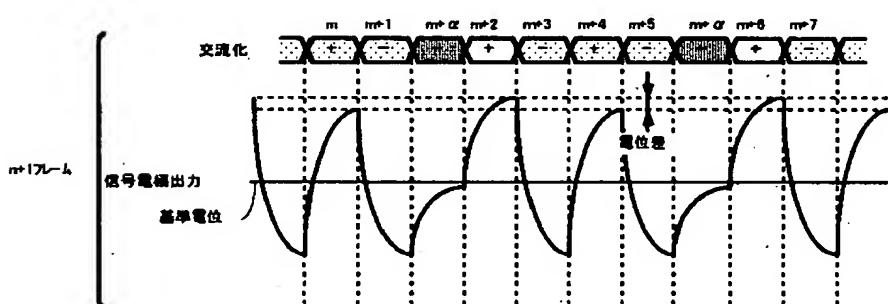
【図38】

図38

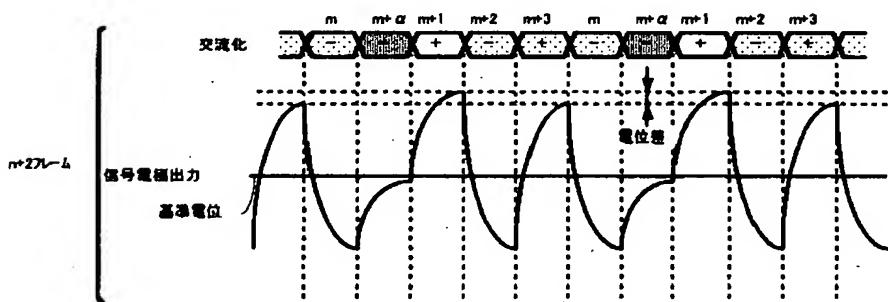
(a)



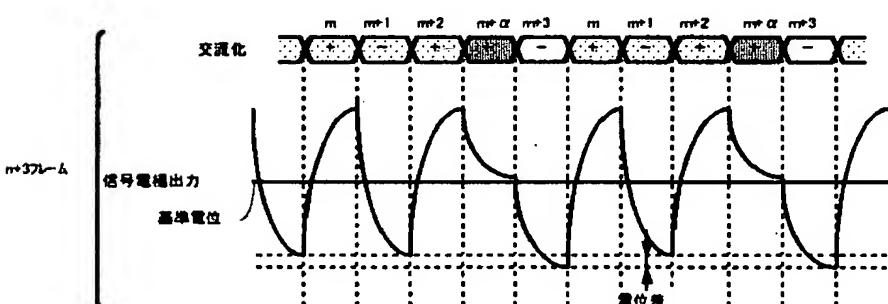
(b)



(c)



(d)



【書類名】 要約書

【要約】

【課題】 画面上に表示される横縞の発生を防止する。

【解決手段】 データ駆動回路と走査駆動回路を備える液晶表示装置であつて、映像データがその水平走査周期ごとにその1ラインずつ入力され、前記データ駆動回路は、前記映像データの1ライン毎にこれに対応する表示信号を順次生成し且つ該表示信号を画素アレイにN回（Nは2以上の自然数）出力する第1の工程と、

前記画素の輝度を前記第1工程における該画素のそれ以下にする表示信号を生成し且つ該表示信号を画素アレイにM回（MはNより小さい自然数）出力する第2の工程とが交互に繰り返され、

前記走査駆動回路は、前記第1の工程において前記複数の画素行をY行（YはN/Mより小さい自然数）毎に前記画素アレイの一端から他端に向けて前記第2方向沿いに順次選択する第1選択工程と、

前記第2の工程において前記複数の画素行の前記第1選択工程で選択された（Y×N）行以外をZ行（ZはN/M以上の自然数）毎に前記画素アレイの一端から他端に向けて前記第2方向沿いに順次選択する第2選択工程とが交互に繰り返され、

前記第1の工程により各画素にはその第1方向および第2方向のいずれに隣接される他の画素に対して一方の電極に対する他方の電極の極性を異ならしめて表示信号が印加され、

前記第2の工程により出力される表示信号は、その出力がフレーム毎の表示にて異なる時間をずらしてなされるとともに、それが供給される各画素の一方の電極に対する他方の電極の極性は、該表示信号の出力後に前記第1の工程により出力される1回目の表示信号が供給される各画素に対して第2方向側で互いに異なるらしめている。

【選択図】 図10

認定・付加情報

特許出願の番号	特願2002-187448
受付番号	50200941658
書類名	特許願
担当官	第二担当上席 0091
作成日	平成14年 6月28日

＜認定情報・付加情報＞

【提出日】 平成14年 6月27日

次頁無

【書類名】 出願人名義変更届（一般承継）

【整理番号】 330200221

【提出日】 平成15年 1月22日

【あて先】 特許庁長官殿

【事件の表示】

【出願番号】 特願2002-187448

【承継人】

【識別番号】 502356528

【氏名又は名称】 株式会社日立ディスプレイズ

【承継人代理人】

【識別番号】 100083552

【弁理士】

【氏名又は名称】 秋田 収喜

【電話番号】 03-3893-6221

【提出物件の目録】

【包括委任状番号】 0214234

【物件名】 承継人であることを証する書面 1

【援用の表示】 特願2002-220607の出願人名義変更届に添付
のものを援用する。

【ブルーフの要否】 要

出願人履歴情報

識別番号 [000005108]

1. 変更年月日 1990年 8月31日

[変更理由] 新規登録

住 所 東京都千代田区神田駿河台4丁目6番地
氏 名 株式会社日立製作所

出願人履歴情報

識別番号 [000233088]

1. 変更年月日 1990年 8月30日

[変更理由] 新規登録

住 所 千葉県茂原市早野3681番地

氏 名 日立デバイスエンジニアリング株式会社

出願人履歴情報

識別番号 [502356528]

1. 変更年月日 2002年10月 1日

[変更理由] 新規登録

住 所 千葉県茂原市早野3300番地
氏 名 株式会社 日立ディスプレイズ